



## 「かごしま検定」の女性ビジネスガイド

今井 俊子（イマイ トシコ）

NPO 法人かごしま案内人／鹿児島市在住／1947 年生

2011 年に全線開通する九州新幹線をビッグチャンスとして、他県に類を見ない多種の自然・歴史・文化・食等をクローズアップさせていくことが求められる。これらを生かす為に、様々なノウハウを持つビジネスガイドを育成することが必要だ。私はこのガイドを女性限定で育成したらと提案したい。これは他県との差別化・特徴をアピールする為である。今「歴女」とよばれる女性がおり、女性ならではのきめ細かいサービス・ホスピタリティも充分發揮出来るのではないか。その為には綿密に計画を立てた育成プログラムを作ることが必要になってくる。幸い「かごしま検定」に合格したレベルの高い女性がいる。この女性達を育成し、ガイドだけでなく、将来的には様々なイベントや提言等にも力を発揮する有能なガイドとして、観光鹿児島の一翼を担っていただけるものと思う。



## 鹿児島の史と景をもっと強力に

藤崎 憲治（フジサキ ケンジ）

無職／鹿児島市在住／1931 年生

人口 60 万人を数える都市、鹿児島市の前面に広がり聳える錦江湾と桜島、世界で美港と呼ばれる都市であっても、1,000m 級の活火山が眼前の海上から直接浮かび上がる港湾都市はない。まずは活火山桜島と錦江湾を PR する観光戦略を考えるべきである。第二は近代国民国家の誕生した幕末から明治 30 年代、日露戦争までの日本の黎明期を動かした維新の立役者西郷、大久保、日清日露の戦役を勝利に導いた東郷、大山、山本等の出身地加治屋町、ここには誕生地等の碑はあるが歴史を感じさせるような遺跡や施設があまりない。そこで、加治屋町から甲突河畔にかけての一帯に、幕末から日露戦役時代の歴史や雰囲気を彷彿とさせるようなモニュメントや場所が欲しい。（現在計画実施中の中であるが……新幹線全線開業や「坂の上の雲」のドラマ化の時、やや物足りない感じがして……）



## 恒久的観光資産を目指そう

三原 健志（ミハラ ケンシ）

経営コンサルタント／鹿児島市在住／1944 年生

九州・山口の近代化産業遺産群（暫定リストに記載）霧島連山のジオパーク認定（来年申請）、奄美大島の世界遺産の登録、姶良・阿多・鬼界の各カルデラを一括してジオパーク認定を全県挙げて実現を目指そう。これらが実現すれば屋久島世界自然遺産と併せて恒久的な観光資源が形成される。①化石の獅子島・甑島～繩文の上野原～霧島連山の横断コース。②近代化の鹿児島市を起点にトリオカルデラの薩摩半島、大隅半島、三島、十島へと展開。A 十島航路を屋久島（宮之浦）経由とし、B 現在試験運航中の宝島～名瀬航路の増便が実現すれば、離島間が繋がり南北 600km の大回廊が出現することになる。これらの恒久的観光資源と年次毎のメインテーマ、地方のイベントを絡ませれば長期的、安定的な観光が期待できる。来年は小松帶刀没後 200 年、2011 年は新幹線全線開業、2012 年は国際火山学会が開催される。維新と火山の鹿児島を大いに PR したいものである。



## 鶴丸城の城門復元を

川畑 登（カワバタ ノボル）

南日本新聞開発センター勤務／鹿児島市在住／1968 年生

これまで薩摩といえば、幕末・明治維新での活躍が脚光を浴びているが、島津氏を中心とした戦国～江戸初期の動向ももっと注目を浴びていいと思う。戦国大名といえば上杉・武田・織田等が有名だが、島津軍団は慶長の役での泗川の戦いや関ヶ原での敵中突破にみられるように、それらにも劣らぬ日本最強軍団のひとつであるといえよう。しかし、日本の中心から遠く離れた南九州が本拠地であるがために中央に躍り出る機会に恵まれなかった。これからは、薩摩藩の遺産をもっと整備して観光スポットとして充実させるべきである。まずは熊本城本丸御殿を復元させ注目を浴びた熊本県を見習い、鶴丸城の城門復元をぜひとも実現してもらいたい。戦国時代から幕末・明治までの薩摩の雄姿を一連の歴史遺産として内外にアピールすべく未来を見据え、計画的な歴史文化遺産の整備を図るべきである。



## 人物別遺跡情報の整備と周辺住民への啓発

古市 吉男（フルイチ ヨシオ）

元地方公務員／鹿児島市在住／1933年生

観光ボランティアに参加したり、県外の観光地へ出かけて痛感したことから、二つの提案がある。一つは、主要な人物別に県内外の遺跡等の情報を整理し、観光案内所や案内者に活用してもらうことである。観光パンフレット類は、通常地域ごとに作成され重宝しているが、（人物別の情報が整理されていると）例えば前田正名の少年時代の住居跡とか、黎明館に前田のことはどの程度展示されているかと尋ねられたり、台湾の客から西郷菊次郎の墓所を聞かれても、誰でも即座に対応できるし、県外客の出身地等の関連遺跡について話を深めることができる。今一つは、校区公民館や町内会等を通じて、地区内の文化財や遺跡等の観光資源について、さらなる关心と理解を喚起するとともに、観光客との交流促進を図っていただくことである。個別行動で探訪する人々が増えている中で、近辺の人々が地元の観光スポットを知らな過ぎることが多い。本物志向の時代、観光客との市民レベルの温かい交流は観光立県の鍵である。

## 史跡での文化活動と観光客との市民交流促進

古市 吉男（フルイチ ヨシオ）

元地方公務員／鹿児島市在住／1933年生

南洲神社境内で日曜日の午前に行われる薬丸自顯流の鍛錬の場に来合せた観光客は、大抵興味深く見入る。中には試技を申し出る人もいる。史跡はそっと静かに偲ぶばかりでなく、地域の人々がその底流に通じる気概をもって積極的に生活に取り込んでいる姿に接してこそ、観光という非日常的体験の感動は更に高まるとともに、市民交流の端緒にもなりうる。史跡管理者のイベントばかりではなく、地域の各種文化団体等に呼びかけて、例えば、演奏・演舞・合唱・吟行・歌会・茶会・スケッチ会・撮影会等々、史跡の屋内外での定期的活動を促進・定着を図り、それを季節ごとにスケジュール化し、観光・交通関係機関団体ともコーディネートすることで、史跡の観光資源としての付加価値を高め、観光客との新鮮で親しみのある交流の機会を創出できるのではなかろうか。こうした地域文化に根付いた市民レベルの交流こそ、これから観光立国に必要な地域条件の一つであると思う。

## 福岡市内に「観光 PR 基地」の設置

柳田 徳一（ヤナギダ トクイチ）

無職／鹿児島市在住／1940年生



新幹線が全線開通すると九州の表玄関福岡市まで日帰りが可能となる。今日福岡市への国内外の観光客は年々増加している。鹿児島は福岡と歴史的に関係が深い。古くは文永・弘安の役で博多湾に約14kmの元寇防壁が築かれ、箱崎地区を薩摩に築き上げさせた。筑前の幕末藩主11代黒田長溥は薩摩25代島津重豪の11男であり多くの協力をした。また、西郷隆盛が月照と共に最も信頼した平野国臣は黒田藩勤皇の志士で福岡市の西公園に銅像が建立され市民の誇りでもある。黒田藩は倒幕に乗り遅れ、明治時代に入ると福岡県は鹿児島の人脈を活用するため、福岡県知事に鹿児島県出身者数名を登場させている。現在鹿児島県人会は福岡で活発な活動を展開している。従って博多駅または天神地区付近に「観光 PR 基地」を設置し、他県に先がけて鹿児島方面への導入を急ぐべきである。運営の一部に県人会のボランティア活動を組入れると経費削減が可能である。是非ご検討いただきたい。

## 郷土の誇りを胸に巣立っていく若者の育成を

若松 齊昭（ワカマツ ナリアキ）

県立種子島高等学校教諭／西之表市在住／1972年生



毎年、高校を卒業して巣立っていく若者たちを見ている。そして多くの生徒が進学や就職で県外へ転出する。果たして彼らは鹿児島にどんな思いを抱いて巣立っていくのだろうか。私自身も高校卒業後6年ほど県外で生活したが、言葉やちょっとした習慣の違いに戸惑った経験がある。また逆に、鹿児島の言葉や習慣、歴史に大いに興味を持たれて困惑したこともあった。ちょうど大河ドラマで「翔ぶが如く」が放映されていたころだ。その時初めて自分がいかに郷土を知らずに生きてきたかを思い知ったのである。今になって鹿児島のことを学ぶにつれ、あの時もっと誇らしげに郷土を語ることができていたら、と後悔する。これから鹿児島を出て行く若者たちには、ぜひ郷土を深く知り、大いなる誇りを胸に巣立ってもらいたい。そして日本中、世界中の人々に声高に鹿児島自慢をしてもらいたい。それが一番の鹿児島PRになるだろう。



## グリーンツーリズムや新観光スポット作り

中馬 吉昭（チュウマン ヨシアキ）

農林業／垂水市在住／1942年生

鹿児島の人や暮らし、自然を知って頂くために、現在南薩地域では中高生を中心とした修学旅行の体験型ツーリズムが人気を得ている。これを大隅半島にも、その他の地域にも根付かせ、鹿県人のホスピタリティを向上させて都市と農村部の交流を積極的に展開していくべきかと考える。これには当初行政にも手助けして貰い、官民協働の運動を繰り広げていくことが肝要と思う。新しい観光スポット作りは、耕作放棄地や荒廃した山林に草花や修景になる樹木（桜、もみじ等）を植えたり、かくれている素材を発掘しそれを磨き上げる運動を展開したらと考える。ちなみに、私は県道71号線沿いにイチョウを1,200本植林して黄葉スポットを作り、昨年マスコミを通して「世間自然遺産・僕立公園 垂水千本イチョウ」として公開し大好評を得た。そうした観光スポットを作れる個人や篤志を持っている人を応援する方策を考えたら、魅力ある観光スポットが生まれるだろう。



## 鹿児島の観光振興対策

濱田 龍二（ハママダ リュウジ）

地方公務員／鹿児島市在住／1961年生

観光資源の要素として、自然・温泉・歴史・娯楽・グルメ等が挙げられるが、本県では後半3つが不足気味である。歴史的遺構こそ少ないが、薩英戦争・西南の役の舞台であり、この時代に多くの偉人も世に輩出した史実は価値ある財産だ。建造物の再建も一案ではあるが、偉人たちの足跡をたどり、その瞬間や同じ風景を垣間見ることが出来るような石碑・説明板・マップ等のより一層の充実を図るべきだ。娯楽では、子供から大人まで楽しめるテーマパーク的な施設が、新幹線も停車する川内駅近隣に欲しいところである。また最近ではグルメ目的での旅行者も多い。黒のイメージが定着しつつあるが、例えば有名銘柄焼酎の県外流出を抑制し、県内の飲食店やホテル等の取り扱い量を増やすなどの対策を試してみては。今後は、それぞれの観光資源の再確認を行い、各種団体と異業種間における更なる連携・協力を試み、観光立県としての地位を築いていかなければならない。



## 観光かごしまを唱えるにはあまりにお粗末

内木場 正美（ウチコバ マサミ）

タクシー運転手／鹿児島市在住／1951年生

私はタクシーの運転手をしている。以前は大型バスも運転させてもらっていた。運転手の立場から不自由に思っている事を書かせていただきたいと思う。お客様を待ち受ける空港、駅、港等の観光バス、タクシー等の待機駐車スペースの少なさは、お粗末としか言い様がない状況である。空港の場合、バスに至っては有料駐車場で待機させるのもどうかと思うし、待機できる台数も少なく、一般車輛と同じ場所、同じ進入路のため、渋滞の時など約束の時間に間に合わないのではないかとハラハラしてしまう。タクシーの場合、2台分しかない。ここに入れない場合、有料駐車場へ廻るが、バスと一緒に専用の進入路等が無いので、これまたイライラしてしまう。宮崎の空港はバス、タクシー共に十数台分以上あり、しかも無料で専用の進入路になっている。鹿児島もこの様に安心して待機し、お客様をお迎えできる待機場所がほしい。現状では「観光かごしま」が泣くのではないだろうか。



## 鹿児島の未来は食と自然と人間と温泉から

蜂須賀 修（ハチスガ オサム）

会社員／鹿児島市在住／1954年生

鹿児島の魅力を、今後県外の観光客に、どうアピールするか篤姫ブームが冷めつつある昨今悩ましいところである。鹿児島の食は豊かだ。強烈な太陽を浴び育った農産物は、濃くおいしい。道の駅等で販売されている安価で新鮮な作物を巡るツアーはどうだろうか。また、南国ならではの植物も多い。もっと自然の豊かさを提案しても良いのではないか。鹿児島市街地の緑化植物を目で楽しんでもらいたいと思う。さらに、最も大事な事は、偉大な先人を育んだ鹿児島の風土を語る薩摩のコーナーを創設してはどうだろうか。観光案内所の一角でも、歴史館の一室でもいい。江戸、明治の人材を輩出した背景等を語れる人を常駐し観光客に語る。最後に、火山県鹿児島に与えてもらった自然の温泉を県外の方にもっと知ってもらいたい。市内、県内観光の間に是非、入浴してもらい体の疲れを取り、また、思い出にして欲しい。



## 桜島にシティビューを乗り入れてほしい

小城 勝美（コジョウ カツミ）

無職／姶良町在住／1940年生

私の愛する桜島は最近、ご機嫌斜めとみえて、噴火の頻度がとくに高くなっている。しかし、だからこそオラガクニのシンボルであり、錦江湾にどっかり構えた勇姿は、他の追随を許さない。この雄大な桜島に鹿児島市の観光に貢献度大のシティビューを乗り入れる。フェリーを降りたら、まずビジターセンターで桜島の生い立ちなどの概要を理解していただく。歩いて遊歩百選の溶岩なぎさ道で俳句を詠んだり、夢を語ったり…。バスは鳥島展望所から赤水経由湯之平展望所へと登って行く。荒々しく、深く刻み込まれた山肌、美しく、さも大河を想わせる錦江湾越しに60万都市を眺めながら、海岸沿いに黒神の埋没鳥居、有村展望所で過去の大爆発後の植生遷移の標本というべき山並、林英美子文学碑など、すばらしい所が目白押しである。世界に誇れる活火山桜島をもっと我々は国内、いや世界に周知宣伝を図っていくべきである。シティビューの桜島周回はきっと成功すると断言する。



## 鹿児島のファン、リピーターをふやすために

鈴木 秀知（スズキ ヒデトモ）

自由業／出水市在住／1954年生

琴線にふれれば人は理屈抜きでファンになるものらしい。ふた昔も前、韓国でのこと。参加したツアーのバスが高速道路上で故障、立ち往生した際、協力を申し出した市民の車で宿泊先にたどり着くことができた。小さな出来事だったが、私が韓国のファンになる機縁となった。観光振興の柱として、ホスピタリティを標榜するためしは多い。畢竟、観光客のこころを捉るためだ。成否はひとえに対応者の人柄、雰囲気にかかっているといつていい。性分もあろうが、日頃の陶冶が大切だ。ありがたいことに鹿児島には、あまたの先人により釀され、全国の多くの人たちから称賛、憧憬されてやまない「鹿児島魂」と呼べる素地がある。かけがえのない宝だ。私たち一人ひとりがこの宝を服膺するとともに、円やかで、こころのこもったおもてなしを実践すれば、必ずや訪れた人々の琴線にふれ、鹿児島のファン、リピーターがふえるに違いない。こころは力を發揮する。

（※機縁：きっかけ　畢竟：最終的な結論としては　陶冶：育成　服膺：心にとどめて忘れないこと）



## 直売所を核にグリーンツーリズムの推進

三宅 康郎（ミヤケ ヤスオ）

団体職員／鹿児島市在住／1942年生

現在、鹿児島県内には265の直売所（県農政部調べ）があり、安心・安全の新鮮な野菜が、また、地域の女性グループや食品加工業者が農作物の加工や惣菜を生産・出荷しており、さらにレストランも併設するなど多くの都市の消費者も訪れ、交流も進み、地域の情報の受発信拠点となっている。この直売所の役割・機能に着目して、今後、市町村行政、農林漁業者・関係者、観光協会、商工会等が連携して、農林漁業の体験学習や農家民泊、手つかずの自然の探訪等のグリーンツーリズムを進めることにより、交流人口の増大と地域活性化がより促進される。グリーンツーリズム成功の鍵は、人づくり、企画等ソフト部門を充実させることであることから、現在の直売所の受発信機能を最大限活かしながら、市町村の指導のもと、地域の農林漁業者等で構築される直売所の組織を中心据えて再編充実し、地域全体のマネジメントを行うことが重要と考える。

## 農産物直売所の観光ネットワーク化を

鈴木 秀知（スズキ ヒデトモ）

自由業／出水市在住／1954年生

名称は実にさまざまだが、私が住む北薩地域だけでも40に余る農産物や特産品の直売所がある。運営・管理主体も農協、会社、管理組合などまちまちだ。ある直売所の話では、県外客も多く、ときに観光スポットの所在地、情報について尋ねられるという。憾むらくは、これら直売所には、観光情報の集積、提供、発信の機能がないことだ。そこで提案だが、人が集うこれらの直売所に観光振興のため一役買つてもらえばどうだろう。県下に点在する主要な直売所をネットワーク化し、観光情報の集積、提供、発信拠点としての役割を担ってもらうのだ。ただ、これには困難も予想される。「いろいろな組織、団体の利害がからみ難しい面もあるでしょうね」関係者のことばだ。しかし、直売所の戮力により観光振興が図られるならば、ひいてはそれぞれの組織、団体の利益にもつながる。直売所の観光ネットワーク化と情報拠点としての活用、一考に値するのではあるまいか。



## 私の考えるこれからの観光鹿児島

溝口 かおり（ミズグチ カオリ）

会社員／鹿児島市在住／1980年生

私は、鹿児島の歴史や文化に興味があり、実際に足を運ぶのが好きだ。その時に目印となるのが「案内板」である。案内板を見ることによってそれぞれの地域の歴史や特徴が分かる。そして、それに関連した他の場所へも足を運びたくなる。私は「鹿児島ぶらりまち歩き」のボランティアガイドをしていたのだが、観光客が他のコースも歩いてみたいと言っていたのが印象的だ。歩くことで、日頃は目にしない光景、車では行けない場所に行くことが出来る。そこで必要なのが「案内板」であると考える。アピールしたいところに案内板を設置し、まずは地域住民の知識の向上を図ることから始めてはいかがだろうか。そうすれば、観光客にも説明する事が出来、満足して頂けるのではないだろうか。島津斉彬生誕200周年や、九州新幹線の全線開業など、より一層観光鹿児島にする要素がある今、このチャンスを生かし、リピーターを増やすことが観光活性化につながると考える。



## 私の鹿児島の温泉への提言

和田 真理子（ワダ マリコ）

団体職員／鹿児島市在住／1951年生

全国有数の温泉県である鹿児島県。日常的に様々な温泉を楽しめることに感謝している。特に銭湯がほとんど温泉であることが、他県の人にとっては驚きであり、県外の友人も来鹿の折、温泉巡りを楽しみにしている。銭湯がほとんど温泉であることをもっとアピールする必要があると思う。また鹿児島中央駅にも温泉施設があれば、新幹線利用者にも旅の楽しみになるのではないかだろうか。また高齢者や体の不自由な方々にもやさしい温泉を作つてほしいと思う。先日、高齢の母をつれ霧島へ1泊した。足が不自由なため車イスを使っているが、大浴場の入口も階段、廊下も車イス使用不可能な廊下であり浴室入口も階段で手すりもない状況であった。たとえば、バリアフリーの家族風呂のような施設を作つていただければ、高齢者や体の不自由な方々も利用でき、宿泊客の増加につながるのではないかと思う。

## 「ぶらりまち歩き」参加者増加対策

山口 盛雄（ヤマグチ モリオ）

無職／霧島市在住／1937年生



「鹿児島ぶらりまち歩き」の集合場所は、城山展望台、石橋記念館、維新ふるさと館、仙巖園入口と各コースによって異なっており、それが参加者の少ない理由の一つではないだろうか。他県からの観光客にとって、これは非常に煩雑である。鹿児島が初めての人にとっては、これらの場所に行くのがひと苦勞なのだ。集合場所を鹿児島中央駅の〇〇と一個所にして、各コースのガイドもそこに集まり、そこからガイドと同行することにすれば、予約していない当日参加者も幾人か加わると思う。そして集合時間はシティビューバスの時間に合わせるとよい。集合場所や時間はお客様の立場にたって、設定すべきものと考える。次に、私の執務する①コースの場合、洞窟前か終焉の地にベンチぐらいは設置して欲しい。そうすれば、約2時間コースのほぼ中間地点に、観光客にとって腰をおろす場所ができるだろう。

## 「鹿児島ぶらりまち歩き」真夏対策

山口 盛雄（ヤマグチ モリオ）

無職／霧島市在住／1937年生

真夏の「ぶらりまち歩き」に、絶対に必要なものは木陰である。<sup>こかげ</sup>真夏の直射日光が照りつける市街地は、暑くてとても歩けるものではない。私の執務する「西南戦争激戦跡！西郷隆盛終焉の地を歩く」コースの場合、城山の展望台・ドン広場・薩軍本営跡は非常に涼しい。しかし西郷洞窟から終焉の地と下って、私学校跡・鶴丸城のお堀端から西郷銅像まで、全く木陰がない。あの通りは絶好の観光道路だと思うが、木陰がないので夏はとても歩けない。あそこの歩道には街路樹として、きれいに剪定整枝されたイスマキが植えられているが、全く木陰をつくりださない。ガス灯の景観や道路上の落ち葉対策も必要だが、せめて真夏だけでも生い茂って、木陰をつくる落葉広葉樹を植えもらえないものか。街路樹として駄目なら、主要スポットに大きな木陰をつくる広葉樹を植樹して欲しい。



## かごしま検定に学んだこと

福田 裕子（フクダ ユウコ）

主婦／姶良町在住／1951年生



2011年の九州新幹線の全線開業により、鹿児島は新しい時代を迎えるとしている。今年の皆既日食に沸いた悪石島や十島村は、離島の魅力を全国に印象づけたのではないか。鹿児島市は広域観光の推進を未来戦略の一つにあげているが、薩摩川内市も新幹線の停車地であり、原子力発電所や多くの温泉がある。しかし、海の交流を考えると、日中友好の船の交流がもっと盛り上がり、川内港への大型観光客船の誘致は実現できないものか。肥薩おれんじ鉄道の客足の伸び悩み、沿岸地域の活性化に向け、出水市等と連携し、北薩観光ロードの整備に繋げられたらと思う。生まれ育った鹿児島をどれほど理解しているか試しに挑戦したかごしま検定。改めて本県の広さを実感し、新しい発見もあった。何気なく通り過ぎていた田の神さあも、今ではユーモラスな姿について足を止めてみる。かごしま検定は、私にとって身近なふるさとを見直すきっかけとなった。



## 明治維新の大業を成し得た志士の史蹟整備を

山下 剛（ヤマシタ ツヨシ）

元教員（校長）／鹿児島市在住／1943年生

明治維新の大業をうちたてた志士をかくも多く輩出した鹿児島は、桜島をはじめ鹿児島の風土と桂庵禅師が広めた學問「薩南学派」を取り入れた藩獨得の郷中教育が存在した。鹿児島の觀光事業の目玉となる史蹟は、何といっても日本に誇ることができる、この幕末から明治まで活躍した志士たちである。これは素晴らしい鹿児島の歴史的遺産である。はばかりながら私は今、志士の中でも第1人者西郷隆盛を鹿児島市觀光課主導によるまち歩きかごしまボランティアガイドとして觀光客を案内している。しかしこの次のような課題が残る。1、ガイドへの研修を深めさせたり、もっとガイドへの便宜を図り資質を高める。2、志士の史蹟のみでなく、その周辺の環境整備を図り、常に気持ちよく静かな環境で案内できるようにする。3、商工会等、県、市町村が連携を強め一体となった觀光推進に努める。等々のことについて留意し、改善を図るなら鹿児島県の觀光はもっともっと振興するものと思う。

## 「海のカルデラロード」の整備と觀光客誘致

内山 憲一（ウチヤマ ケンイチ）

会社員／鹿児島市在住／1953年生



鹿児島県は素晴らしい自然と興味深い歴史のある土地であるが、県民が当たり前のこととしてその価値に気付かず觀光客へのPRも不足している所が多いと思う。例えば空港から鹿児島市街へ行く場合、一般道で重富から磯へ走ると美しい海と山の風景が広がるが、少しでも早くと高速道で山の中を通ってしまう。私は逆に、桜島を含め鹿児島湾北部を一周する自動車道を「海のカルデラロード」として整備し、觀光客誘致に活用すべきと考える。桜島は多くの見所があるが、これに垂水の「道の駅」、福山の黒酢や松下美術館、上野原遺跡、重富、磯と繋ぐ。「黒潮とマグマが生んだ絶景の道」として、2万5千万年前の姶良カルデラの大爆発や海水の浸入という壮大なドラマは万人の興味を引く事ができるものである。さらに花倉の西郷蘇生や磯の集成館事業など幕末の歴史も刻まれており、鹿児島を代表する觀光ルートとなり得る。

## 「鹿児島三大詣り」の復興

内山 憲一（ウチヤマ ケンイチ）

会社員／鹿児島市在住／1953年生

かつて鹿児島には三大詣りの伝統があったが、現在では3つのうち、妙円寺詣りだけが残っている。廃れてしまった心岳寺詣りと日新寺詣りも復興させて、三大詣りとして老いも若きも長い道のりを歩く伝統を、復活させることを提言する。できれば鹿児島からの道のりを、当時の古道を調査してできるだけ忠実に再現できると素晴らしいと思う。妙円寺詣りだけが今も続いているのは、手頃な距離で帰りはJRで簡単に戻れる便利さにあると考えられるが、長い距離を歩いたり、険しい道を歩くことでさらに大きな達成感を得ることができるし、青少年の鍛錬にも繋がる事である。さらに妙円寺詣りも義弘公についての知識や背景が忘れられ、歩くことだけが目的となりつつある。三大詣りの歴史と意味をアピールすることで、郷土への愛着が深まり故郷を深く知りたい気持ちが育まれると思う。



## あるグランドマスターのひとりごと

鷲島 泰藏（サメシマ タイゾウ）

地方公務員／鹿児島市在住／1950年生

篤姫ブームも一段落し、観光客で賑わった観光ポイントも夾やかな秋風の中、ブルム前の落ち着きを取り戻しているところである。さて、最近「ポスト篤姫」という言葉を耳にするが、柳の下のどじょうはそう簡単には出て来ないと思う。このように模索する中、追風が吹いてきたようである。高速道路千円、九州新幹線の全線開業である。新幹線が大阪まで直通となれば次のターゲットは関西地区とすべきである。関西地区は戦前戦後を通じ多くの鹿児島の先輩達が就職され住みつかれておられる。テーマは「故郷に抱かれて」とし、最初は故郷探訪、その後は定住化まで持って行けたら限界集落の防波堤になることもできるはず。売り物は昔と変わらぬ大自然、新鮮な食材、それと暖かいおもてなしの心である。また、スパイスに歴史の事実は如何と思う。ただ一過性のブームではなく、少し長めのしっかりとしたプラン作りが肝要である。



## 伝えたい鹿児島の情

藤崎 幸雄（フジサキ ユキオ）

無職／姶良町在住／1945年生

人は何を求めて旅に出るのか！それは癒しであり、未知との出会いである。旅人の心は童心にかえり真白き心のキャンバスとなる。メジャーな観光の目玉は、あくまでリード役であり、それでもって大きな成果を望むより、具体的には、街で出会った観光客に自分から進んで挨拶をする小学生、まずは観光客の故郷のお国自慢を聞く人、採集した蘇鉄の実を栽培書付きでプレゼントする人、案内した人に必ず御礼の観光葉書を出す人、等々。観光立県鹿児島の礎を恒久的に、より足腰強くするためには、ローカル色豊かな鹿児島の情が観光客の心に届く事を願いつつ、限りない感謝をこめて伝え、確固たる小さな成果を積み重ねてゆく事である。そして、その真白き心のキャンバスに描かれるのは、楽しい思い出、忘れ得ぬ出会い、感動、マイクドラマ、そして明日への元気。生まれているのは、頼もしい鹿児島観光大使館員であると信じて疑わない。「鹿児島茶と情は濃い」と「五感で勝負」。

## 自信を持とう我が国をリードした鹿児島に

水之浦 敦（ミズノウラ アツシ）

鹿児島くみあい食品株勤務／鹿児島市在住／1952年生



鹿児島は古くから海外との交流の盛んな地である。古くは、鑑真和尚、中世にはザビエルを迎える、徳川幕政下でも琉球を通じて海外と盛んに交易していた。ここでは、ウィリアム・ウィリスについて述べてみたい。彼は、文久2年（1862年）に来日した英國人で、貧しくとも気高きアルスター・マンである。横浜の英國領事館付医官の時、生麦事件に遭遇し、薩摩藩士に切られた英國商人リチャードソンの検屍を行った人で、薩英戦争や明治維新も肌で体験している。その後、明治2年に来鹿し病院の開設や、吉野での酪農奨励など予防医学や保健・衛生面の指導を行ない、その教えは高木兼寛（慈恵医大創設）等を経て現在にまで受け継がれている。これらの交流の軌跡は、県内各地に残されているが、何よりも我々鹿児島人のDNAに深く刻まれている。我々は、歴史や文化・産業等で優位性を持つ鹿児島をもっと理解し、県外の方々へ自信を持って発信したいものである。

## おいしさ満載鹿児島の農畜産物

水之浦 敦（ミズノウラ アツシ）

鹿児島くみあい食品株勤務／鹿児島市在住／1952年生

鹿児島は全国有数の農畜産物の生産県である。特に、鹿児島黒豚はスペインのイベリコ豚と並び賞される超逸品であり、生産量日本一の鹿児島黒牛もその品質は高く評価されている。作物では、そら豆、オクラ、さつまいも、ばれいしょや、紅甘夏、びわ、お茶や菊なども県内各地で生産され、全国に出荷されている。一方、マイナーだが、大名竹や緑竹は竹の子の王様と呼ばれるほど美味しく、是非とも全国に紹介したい一品である。また、人気の種子島の安納いもは、さつまいも王国鹿児島の救世主となる商品と云える。このように、鹿児島では多くの農畜産物が生産されているが、これらを食材としてだけでなく調理法や加工品も鹿児島の伝統、食文化とともに全国に発信したい。そのためには、農商工連携を図り、県や市町村との連携も強め、例えば、「鹿児島のよい食YEAR」等を設けて、1人の有名な知事の力に頼るのでなく、県民総ぐみで全国に売り込んでいけたらと考える。



## 「観光の日」で観光立県を(また来たくなる鹿児島づくり)

平野 紀一 (ヒラノ キイチ)

無職／鹿児島市在住／1941年生

「観光の日」を制定し、全県民が観光立県の意識を高める目にすることを提言したい。もう一度来てみたいと思う旅は美しい景観、おいしい食べ物、土産なども大切な要素であるが、最も強く人をひきつけるのは温かいもてなしであり、人情である。しかるに、県民の観光立県の意識が広く浸透し定着しているとはいえない。宿のもてなし、バス・タクシーなど交通機関の乗務員のマナー、飲食店の対応、道をきかれたときの県民の対応などなどまだ改善の余地が多いと思う。そこで、観光の日に知事や各首長が先頭に立って全県民一齊に美しい郷土づくりに汗を流し、観光関係者がマナー等を勉強する日にしてほしい。行動することによって観光に関する県民の意識が高まり、手入れの行き届いた美しい町並み、おいしい食べ物、心のこもったもてなしが魅力的な全国一の観光県を作ることができ、観光客は確実に増えるであろう。



## もっと錦江湾の活用を

平野 紀一 (ヒラノ キイチ)

無職／鹿児島市在住／1941年生

雄大な桜島を浮かべる錦江湾のすばらしさを観光に生かす提言をしたい。錦江湾を高級感のあるリゾート地に作り上げる考えは如何であろうか。たとえば、ヨットハーバーを薩摩・大隅両半島に建設し、錦江湾や世界遺産の屋久島まで、あるいは奄美大島までの国際規模のヨットレースを開催する。さらに海水浴場の整備、桜島や佐多岬のスキューバダイビングスポットの整備なども並行して進めて、日本を代表する海のリゾート地づくりを進めてはどうだろうか。あわせて、ヘリコプター観光基地を指宿や鹿屋に整備し、空からの遊覧観光もできるようにすれば大隅半島も生きてくると思う。これらに安全で美味しい食べ物、郷土の素材を生かした土産が加わればどこにも負けない観光地になる。これに県民こぞっての丁寧で温かい歓迎が定着すれば数多くのリピーターが期待できる。そして、鹿児島は世界の観光リゾート地となり、豪華観光船も寄港も増えるであろう。

## 城山展望台の見直し

匿名希望 (男性)

無職／鹿児島市在住／1935年生

私は、城山展望台で月数回、ボランティアガイドをしている。ここからの景観は見る者を魅了している。すっかりビル化した市街、大小の船が往き交う錦江湾、その上に浮かぶ活火山桜島。特に今は頻繁に噴煙を上げている。その瞬間に居合せた観光客は、大喜びである。また、ここから市内外の主な観光スポットを見る事が出来る。だから観光客が集まって来る。今後、高速道路無料化、新幹線全線開業となると、益々観光客は増える。だが、今の展望台はとても狭い。眺望も悪くなっている。展望台内の記念樹、必要以上に広くロープが巡らしてある。展望台下の左右、特に左辺は、木が高くなり、蔦がはびこり、天孫降臨の霧島連峰は見えない。鉄棒のある、あの空地、木を取り払い観光客に解放すべきである。規制に縛られているのは承知しているが、見直す時に来ていると思う。パリのモンパルナスの丘の様に、多くの人に愛される城山に。

## “歴女”も満足、歴史を感じる地域づくり

松清 雅行 (マツキヨ マサユキ)

県職員／鹿児島市在住／1969年生



最近、「歴女」という新語を目にする。これまで歴史にはあまり関心がないとされてきた20・30歳代の女性に歴史マニアが増えているそうだ。鹿児島県は幕末を中心に歴史上活躍した人物が多いことを考えると、歴史マニアが増えることで、本県を訪れる人も増えることが期待される。そして、歴史マニアの期待に応えるためには歴史上の人物ゆかりの地がそれとわかるような環境整備が必要である。しかし、歴史マニアの関心は人それぞれで、しかも、西郷や大久保、篤姫や小松のような有名人以外の人物に関心を持つことも多く、それを事前に把握することは難しい。そこで、地域ごとに地元の歴史上の人物とその足跡を洗い出し、そのゆかりの地に説明板を設置する取り組みを行ってはどうだろうか。地域住民も地元の歴史に関心を持つきっかけになると考える。



## 県内観光の活性化

西 正智（ニシ マサトモ）  
公務員／姶良町在住／1965年生

県外からの誘客も大切なことではあるが、まずは県民に地域の良さを知ってもらい、地域を存分に楽しんでもらうという発想が重要だと思う。県外の主要な観光地やイベントなどを見に行くと、そのもの自体の素晴らしさはさることながら、地域全体の盛り上がりに驚かされることが多い。住んでいる人達にとって魅力的な観光地やイベントを醸成し、それを地域住民みんなで楽しむという雰囲気ができてくれば、そこに向けて自然と県外からの人の流れもできてくるのではないか。その意味では、今年から県内各地で開催されている「かごしまよかとこ博覧会」などの、地域やそこに住んでいる人達の特性を活かしたイベントは、県民みんなで盛り上げて育てていきたい。また、景気の一段の悪化や新型インフルエンザの流行などに連関して見られるように、観光産業は外的な要因の影響を受けやすい。そのような観点からも、頼りになるのはまず身内だと思うがいかがか。



## 敵を知り己を知る

西 弘喜（ニシ ヒロキ）  
加治木高校2年／姶良町在住／1992年生

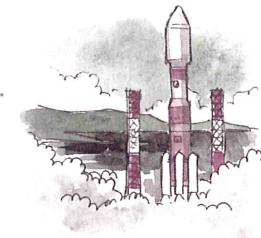
自分はほとんど県外に行ったことがなく、他県の自然や歴史、文化に直接触れた経験がない。今自分の身近にある桜島をはじめとする観光資源が他県のものと比べて本当に素晴らしいものなのかどうかわからないというのが正直な気持ちである。自分は今高校に通っているが、周りの高校生達も県外、特に都会の大学への進学やそこで生活にあこがれをもつ人が多く、鹿児島は周りと比べて遅れているというイメージを持つ。自分の高校も、建っている場所は島津家にゆかりがあるので、よく先生が言われるが、だから何なのというのが多く高校生の感想である。つまり、誇りに思っていないのである。自分は今、県外の大学に進学するために勉強に励んでいるが、鹿児島の魅力や、地域の持つ潜在能力を理解するためにも、一度県外に出て、いろいろな所を見聞し、その上で客観的に鹿児島を見つめ直したいと思っている。いつか故郷に恩返しするためのステップだと思う。

## 温泉都市「鹿児島」

古川 久美子（フルカワ クミコ）  
主婦（水族館ボランティア）／鹿児島市在住／1950年生



鹿児島市内の公衆浴場、宿泊施設の殆どが温泉である事を、多くの観光客が知らない。これは大変残念である。後年造った箱物は再訪したいと思わないが、温泉や食べ物などソフトな面は、再び観光客を呼べる。温泉は、泉源数では全国2位である。霧島や指宿だけでなく鹿児島市に温泉がある事をもっと広めて欲しい。別府のように、湯煙を上げる事は出来ないと思うが、城山や市内散策をした後など、足湯などあればと思う。市内の宿泊施設には、観光客には立ち寄り入浴などで開放して欲しい。そんな形で、温泉を意識してもらうと、鹿児島は観光客にもっと優しくなる。歴史や遺産ばかりでなく、是非市内の温泉を知って欲しい。市内はシティビュー等で割とコンパクトに観光できる規模なので、中央公園に足湯があれば良い。それに新幹線等で来鹿してもらっても、その先の交通網が非常に悪い。その事は、是非改善すべきと考える。



## おじやり申せ 種子島

枝松 有紀（エダマツ ユキ）  
鹿児島純心女子短期大学司書／鹿児島市在住／1977年生



種子島には、ポンカン、サトウキビ、東京では入手困難と聞く安納芋、トップ（飛び魚）、水イカ、ナガラメ（トコブシ）など様々な山海の珍味がある。平坦な土地で温暖な気候のため、食べる物に困ることがなく、古くから開拓地として全国からの移住者を受け入れてきた。中でも種子島の人々が、火縄銃を伝えたポルトガル船をはじめ多くの漂流船を手厚く救護した史実でもわかるように、人情が篤く、他者を受け入れる気質があったことも無関係ではないだろう。言葉も通じない、異様な服装の外国人と砂で筆談したのだから、現在でも多くのサーファーが移住してきているのも何ら不思議ではない。伝統工芸品として知られる種子鉢は、こうしためぐりあいの中から生まれた逸品の一つである。古来からの交流の軌跡であろう美しい方言がごく日常的に使われ、コミュニケーションに味わいを持たせている。



## ボリュームゾーンとの共生による観光振興

大重 康雄（オオシゲ ヤスオ）  
鹿児島女子短期大学准教授／鹿児島市在住／1954年生

内外をとりまく経済環境の変化はめまぐるしい。長年構想段階だった「東アジア共同体」は、経済連携協定等実質的な協議の環境が整ってきた。九州・鹿児島はアジアの玄関口であり、日中韓の要となり得るロケーションだ。巨大な消費需要のある地域（ボリュームゾーン）との経済連携は、鹿児島県の観光振興にとって大きなチャンスである。少子高齢化が加速する当県にとって、このボリュームゾーンとの共生は一筋の光明である。観光とタイアップし、「安心・安全・新食料供給基地かごしま」を同地域に売り込み、輸出産業に発展させる期待もふくらむ。内外観光客を招き入れる過程で特に留意したいのは、急速な観光開発が、貴重な自然環境を劣化・破壊させではないことだ。一流の観光地には、それなりのポリシーがある。食に安心安全のポリシーがあるように、持続可能な観光産業のためには、自然環境保全のための厳格なポリシーをもって取り組む必要がある。

## 鹿児島の魅力発見本—観光・文化テキスト—

有馬 博文（アリマ ヒロフミ）  
鹿児島トヨタ自動車株勤務／鹿児島市在住／1946年生



鹿児島観光・文化検定テキストは、鹿児島の自然・歴史・文化・地域の特徴・産業など、その魅力、素晴らしさを数え切れないほど教えてくれる。雄大な桜島、波静かな錦江湾をはじめ鹿児島の美しい景観は火山のおかげ。激動の幕末期を毅然として生き抜いた篤姫は江戸城無血開城に大きな役割を果たした。大口市の郡山八幡神社で発見された木札に書かれた「焼酎」の文字は日本最古である。等々、郷土の魅力を改めて発見できた。九州新幹線全線開業を間近にし、観光客の増加が期待される中、検定テキストを通して、一人でも多くの県民が郷土の歴史・文化に興味を持ち、その良さを周りに語り伝えることが観光語り部、観光ボランティアを育み、また本県の観光振興、地域活性化を推進することにもなると考える。「翔ぶが如く」から18年目の大河ドラマ「篤姫」は今も心に強く残る。来年は、桐野利秋の映画公開。県内外に常に鹿児島を発信し続けることも忘れてはならない。



## スポーツを通じた街づくりで交流人口増を

岡田 祐介（オカダ ユウスケ）  
MBC 南日本放送 アナウンサー／鹿児島市在住／1977年生

鹿児島のスポーツが今、変わろうとしている。これまで数々の名選手を世に送り出してきた鹿児島。しかし高校野球のように県民が一致団結して応援するプロスポーツは無い。「サッカー王国」であるはずの鹿児島だが、九州沖縄で唯一JFL以上のチームが無い県になってしまった（09年9月現在）。しかしうやうやくプロバスケットボール「レノヴァ鹿児島」や女子サッカー「ジュブリーレ鹿児島」など、全国リーグで奮闘するチームが出てきた。こういったチームを県民で支えていくことが、地元を愛する心をさらに育て、観客という形の交流人口も増えていくはずである。何より鹿児島の将来を担う子供達に夢を繋いでいくことが、我々大人の仕事ではないか。スポーツで勝つために相手を知り、分析をする。それは観光振興においても同じことである。そしてブームを自ら作り出せる力を。スポーツにそのヒントが隠されているかもしれない。

## 好奇心を駆りたてる情報発信の継続

田代 実美（タシロ サネヨシ）  
県職員／鹿児島市在住／1960年生



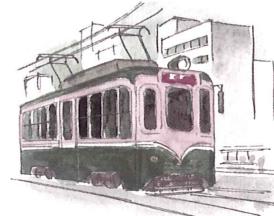
大河ドラマ「篤姫」で、新しい鹿児島の魅力を発信することができたことは良かったと思う。しかし、趣味や関心をもたれるものが多様化した現在、県外の方が鹿児島に行ってみたいと思わせるには好奇心を駆り立てる情報を絶えず発信する必要があると思う。近代化産業遺産群の世界遺産登録に向けた取り組み、食をテーマとした新たな魅力づくり等、今続けられている様々な取り組みを今後も継続するとともに、歴史、風土、産業等とも関連付けて、観光客に鹿児島を多角的に見てもらえる工夫をしていく。このことにより、観光客に継続して鹿児島に来ていただき、新たな地域・施設へと関心をもって訪れるることは、観光客の増加につながると思う。これに併せ、鹿児島に住む人々にも鹿児島の魅力を知ってもらう活動を続け、住人は誰でも鹿児島に誇りを持って簡単な説明ができるようになることを目標にする。そうなると観光客も満足されると思う。.

## 県民参加の観光振興

匿名希望（女性）

接客業／霧島市在住／1978年生

観光客と接することの多い職場で働いていると、観光客より鹿児島の観光についての不満・指摘をいただくことも少なくない。の中には同じ内容についてのものも多い。それに対して、お詫びをお伝えすることしか出来ない時、せっかく鹿児島を選んで訪れてくださったお客様に不愉快な思いを残させてしまったこと、意見をいただきつつもそれに対し、解決策がとれないことが残念でもどかしい。アンケートの設置だけでなく、実際に観光客と接する職業の者や一般の県民からも鹿児島の観光についての意見を直接伝える手段があればと思う。そして、その意見とそれに対する回答を広く公開する場を設けることで、鹿児島の観光の状況、鹿児島が目指す観光の形を県民全体で共有することが可能になる。かごしま検定の実施により県民自身が鹿児島の魅力について理解を深める機会が広まることに加えて、県民一人一人が観光振興に参加する場を作ることは、観光の活性化に不可欠だと思う。



## 桜島における観光拠点の形成

匿名希望（男性）

公務員／鹿児島市在住／1963年生

桜島は、本県のシンボルであり主要な観光地の一つであるが、鹿児島市等のビュースポットからの鑑賞対象としての存在感が大きく、桜島が本来有する活火山としての自然科学、歴史、産業といった観光に直結する魅力を発信する拠点的な場や仕組みを持ち合わせていない。九州新幹線の全線開業やこれからの観光スタイルを考えると、桜島フェリーに渡船し、桜島に2時間程度滞在したとき、桜島を多角的に楽しめる総合的な観光・情報発信拠点の整備が望まれるのではないか。具体的には、フェリーターミナル周辺の国民宿舎、ビジターセンター等の既存施設を活用しながら、溶岩原等の自然景観、火山博物学、活火山と共に生してきた歴史、桜島の豊かな産物が楽しめ、学べ、味わえるといった拠点機能を有し、湯之平展望台や黒神の埋没鳥居、古里温泉などといった点在する観光スポットへの発着点にもなり得る都市公園の整備が望まれるのではないか。

## 天文館を素敵な大人が集まる九州の原宿へ

日高 瞳雄（ヒダカ ムツオ）

株式会社シャトー勤務／姶良町在住／1958年生



だれに聞いても鹿児島の観光資源、素材は他県より豊富で質が高いと言う。その割には意外と地理的ハンデを差し引いても観光客は少ない。これは鹿児島県の観光行政の中途半端な都市計画とPR不足によるものだと思う。まず思いきった大胆な提案をしたい。全国にも名の知れた天文館を大改造し、今一番人口の多い中高年が集まる九州の原宿にすることである。まず中央駅から天文館一帯は車を閉め出し、市電のみに人工の川や池を作り石橋公園の橋を架け、お祭り広場、その他イベント会場等を作り、地元を生かしたエコ、オアシス、ドリームショッピングゾーンにする。町全体を安全安心おしゃれにし、素敵な大人のカップルが手をつないで歩ける町。今こそ新幹線開通、高速道路の無料化チャンスである。大事なことは他の県がやってないことを先にすること、それと上手で質の高いPR。市電軌道敷の緑化は大成功であるがPR不足。それと明治維新に頼った観光に頼らないこと。

## 鹿児島の存在をもっとアピールしよう

福留 敦子（フクドメ アツコ）

無職／鹿児島市在住／1954年生



桜島や屋久島等に代表される景観・自然、黒豚・焼酎といった食文化。鹿児島には人を惹き付ける要素は揃っている。事実、他府県の鹿児島に対するイメージは総じて良い。しかし興味はあっても、是が非でも行きたい土地としての認識はまだ低いのではないか。良い素材をたくさん持っているのに、それをアピールする力が弱いように思う。「篠姫」の県内への集客力の大きさからも分かるように、アピール力（この場合は大河ドラマというメディア媒体）は人を集める大きな力になる。鹿児島の特長が旅行の目的として成立するよう具体的に認識されるような活動を行っていくことが重要である。何が鹿児島にあり、鹿児島ならではの食、そこでしか味わえないものは何であるのか。今ある名所・物産を積極的に県外に情報発信し、アピールすることにもっと力をいれるべきである。



## 笠沙路が誘う神話のロマンと謎

山下 新治（ヤマシタ シンジ）

元教員／鹿児島市在住／1944年生

南さつま市笠沙路を走ると自然の造形と変化に富むアーチ式海岸が見渡せ、八百万神が創造したであろう景観に畏敬の念さえ感じる。古代の祖先たちはこうした場所に神の姿を見ていたのだろう。高天原を離れて高千穂の峰に降り立った瓊杵尊は吾田の長屋の笠沙砦（野間岬）に移り、「朝日の直刺す国、夕日の日照る国」に宮殿を建てる。そこで木花開耶姫と巡り会い、海幸彦・山幸彦をもうける。兄弟は「幸」を争い、竜宮で豊玉姫と出会った山幸彦（彦火火出見尊）が勝利し天皇家の祖神となる。その子鶴鵠草葺不合尊は玉依姫と結ばれ生まれた子が神武天皇となる。敗れた海幸彦は「隼人」の始祖となった。ご存知、「日向神話」である。一見荒唐無稽な話であるが、「野間岬が登場する訳は」「天皇家と隼人の祖先が同じ理由は」等々そこに古代日本が成立する過程のロマンと謎が秘められている。神話へ誘う笠沙路を「神話の道」と名付けてみたい。

## 歴史と「味と人情」に出会うまち巡り

山下 新治（ヤマシタ シンジ）

元教員／鹿児島市在住／1944年生

平成20年4月から始まった「かごしまぶらりまち歩き」の「篤姫コース」のガイドを1年間担当した。大河ドラマ「篤姫」に国民的関心が高まる中、県内外の多数のお客を「ゆかりの地」に案内して喜びやお礼の言葉を戴いた。しかし、自分の中では「本当にお客様のニーズに応えられたか」「鹿児島の良さ（らしさ）を伝えられたか」等々、不満足そうな客の顔が気になった。お客様が期待するものとガイドのミスマッチもさることながら、とりわけ県外客の楽しみは鹿児島に来ているという実感を持てたか、と言うことのようだ。歴史に絞り込んだ観光ガイドではリピーターは望めそうにない。お客様の多数を占める中高年女性は、気軽に「歩く・見る・喋る・食べる」を同時に楽しみたいという願望が強い。提案として鹿児島中央駅、西駅朝市、甲突川河畔、天文館を繋ぐ「まち巡り回廊」をつくり、途中の「茶屋」では歴史を語り「カライトモやお茶・人情」に出会える仕掛けはいかが。

## 観光にもっとライブ感を

國料 忠（コクリヨウ タダシ）

映像制作ディレクター／鹿児島市在住／1965年生



皆既日食の際、トカラ列島に滞在したが、あいにくの雨で日食そのものを見ることはできなかった。しかし、ツアー客は、竹籠づくりの体験や畜産農家を訪ねる中でトカラの魅力を満喫していた。また、修学旅行生の南薩の農家の民泊を取材した際には、「生活が観光資源になるのだな」と再認識した。これからの観光には、「ライブ感=地方の生活感」が大切になると思う。例えば、市場の活用。鹿児島の食材に触れるだけではない、売り買いを通じ、地元の人とちょっとした交流ができることが観光客にとっては楽しいし、鹿児島の食のいいPRにもなる。歴史にもライブ感が必要だ。会津を訪ねた際、地元の人が、「たかだか140年前のことです」と戊辰戦争の事を話すのを聞いたとき、この地の歴史は生きていると感じた。銅像や石碑は残念ながら生きていない。歴史を観光で活かすには、郷土愛を育てることが一番だと思う。鹿児島らしい教育を今一度考える事が肝要だ。



## オンリーワンの鹿児島観光を目指して

匿名希望（女性）

団体職員／鹿児島市在住／1962年生

大河ドラマ「篤姫」では、全国にそして地元鹿児島にも大きな印象を与えた。鹿児島の歴史や背景を知っていただき、実際、鹿児島に旅行にきていただき、認識いただいた絶好の機会となった。鹿児島の「歴史」や「文化」など豊富な上質な素材がある中、それらを利用した鹿児島のイメージを作りだすことの大切さを痛感させられた機会にもなった。素材を生かしながら、ご当地の物語を作る工夫は大事だと思う。県外からの問合せで一番多いのは、「屋久島」に関する情報である。「自然保護」と「観光促進」を両立していくには、何らかの制限を設けるのはいかがだろうか。アメリカのイエローストーンやアーチーズ国立公園等では、入園者の殺到する休暇期間に限り、入園事前予約を受け付けている。グランドキャニオン国立公園内のホテルでは、「環境保護協力金」として宿泊料プラス1ドルの支払いをお願いしている。独自の方策で「オンリーワン」の鹿児島観光を目指してはいかがだろうか。



## 「おもてなしの心」醸成と普及について

島 紀夫（シマ ノリオ）  
無職／鹿児島市在住／1942年生

今年4月に施行された「観光立県条例」の基本目標に「おもてなしの心と素材で形成する・・・」が設定されている。観光客の心にまず感じとられるのは、地元の皆さんの「おもてなしの心」ではないだろうか。暖かい、親切、感動といったものに結びついていくものの、それは地元の皆さんの観光客への「心遣い」に尽きると思う。観光関係の諸施設、各種交通機関、さまざまな商店はもとより、市民ひとりひとりが街角での簡単な道案内、安全への気遣いを心がけて欲しい。何気ないちょっとした心遣いが観光客にはとても有難くおもえるものだと思う。その為には、地域の歴史・文化遺産等に関心を持ち、地域へのいわば郷土愛のようなものを持てるよう、地域毎に地道なさまざまな取り組みが欲しい。既に、鹿児島市の上町地区ではこの種の具体的な活動が行われている。このような活動に対するさまざまなサポートを今後物心両面にわたり推進していくことが望まれてならない。

## 中国人観光客への対応について

匿名希望（男性）  
公務員／鹿児島市在住／1964年生

中国人向け個人観光ビザが解禁され、今後は経済発展著しい中国からの観光客誘致が、本県の観光にとってますます重要になることから、観光関係団体や商店街等が連携して、銀聯カードを使える店舗や、外国人旅行者が購入する土産品の消費税が免税となる輸出物品販売所を増やし、そのマップや日本語・中国語併記の買物対話集をHPに掲載するとともに、空港や港で配布できれば、中国人個人観光客の利便性が向上すると思われる。また、マリンポートからの送迎バスを、みなと大通り、大門口通り、照国神社前等に分散して駐車することができれば、クルーズ船中国人客をイオンではなく、天文館周辺へ誘導し、天文館の活性化に繋げることができるのではないかと考える。



## 教科書に書かれていない郷土の歴史

永窪 一宏（ナガクボ カズヒロ）  
元教員／鹿児島市在住／1940年生



郷土鹿児島は、外国の文化を他の地域に先んじて受容した歴史を持つ。たとえば、1543年にポルトガル人が種子島に来航して鉄砲を伝えたが、これを単なる鉄砲伝来とだけの理解はしたくない。島主種子島時堯は家臣に鉄砲・火薬の製法を学ばせ、国産第1号の鉄砲を製造した。その技術はまもなく紀州根来や堺に伝えられた。しかも、信長が武田勝頼を破った長篠合戦より20年も早く岩剣城の戦いで鉄砲が用いられている。キリスト教の伝来でも同じことが言える。1549年ザビエルは薩摩の青年に案内されて鹿児島に上陸し、布教して多くの信者を誕生させ、そのうちの選ばれた1人は日本人として初めてヨーロッパの土を踏んだ。とにかく、鹿児島は単なるキリスト教の伝来地ではない。このような傾向は、幕末における留学生の派遣や紡績工場の設立などにも引き継がれているように思う。中学校や高校の教科書に書かれていない郷土の歴史を多くの人に伝えていきたい。

## 土佐の千枚田に学ぶ

永窪 一宏（ナガクボ カズヒロ）  
元教員／鹿児島市在住／1940年生

司馬遼太郎氏の著書の一節に、「千枚田のある土佐の檍原にもう一度行ってみたい」という一節があった。檍原は南国とはいえ、四国山脈の高地にある寒冷の地で、平安時代以来、伊予からやってきた人々が、棚田を作り続けていた場所のことである。観光客の中には、普段はあまり人が訪れない檍原のような地に興味関心を持つ人もいるはずである。本県を訪れる観光客も、めざす対象は一様ではなく、さまざまな地をさまざまな角度から観察・経験しようとしているのではないだろうか。本県は風光明媚で豊かな自然があり、歴史的遺産も多い。しかし、いわゆる観光資源に恵まれていない市町村もある。そのような市町村にも、檍原の千枚田に類するような何かがあるかもしれない。それは観光資源に限らない。その地域の人々の暮らし、風習、伝承などである。もしそのようなものがあって、できれば歴史的な裏付けに支えられたものであれば、素晴らしいことである。



## 人間力!地域力!⇒観光力!!

米山 高兆 (ヨネヤマ タカヨシ)

県職員／鹿児島市在住／1955年生

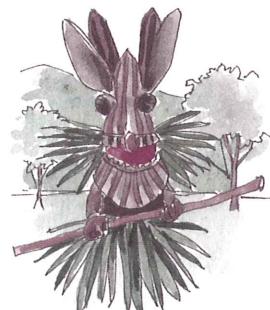
鹿児島の観光資源で優れたものとは、桜島・食・歴史・近代化産業遺産……いろいろあるが、最も誇りえるものとは、長い歴史で醸成された独自の県民性であると考える。観光客のニーズが、画一的・大量消費的なものから、個性的なもの、地元とふれ合い・自ら体験するものへと変化してきている今こそ、鹿児島人が持つ強い地域性、あたたかいホスピタリティを最大限に活用すべきであり、そこで注目すべきは、観光ボランティアガイドだと考える。各地で、歴史・特産品等に関する多様で個性的なボランティアガイドを育成し、これをネットワークで結び、いつでも観光客のニーズに応えられるシステムをつくりあげれば、人間力と地域力を活用した観光かごしまの観光力は、更に力強く魅力あふれるものになっていくであろう。



## スピード化とユックリズム

牛ノ濱 修 (ウシノハマ オサム)

会社員／沖縄県北谷町在住／1950年生



大阪から「さくら」に乗り約4時間の新幹線の旅。桜島が迎えてくれる。一路奄美へ。暮れなずむ赤い桜島に別れを告げ、夕暮れ時の錦江湾を南下する。静寂な早朝の名瀬の港に着き、太平洋からあがる朝日に感動し、奄美パークへ。「日本のゴーギャン」田中一村に触れ、昔の日本の原点、奄美の民俗を尋ねる。その後は、名瀬の民謡酒場で島唄に触れ、島酒で疲れが一気に吹きとぶ。あくる日は「東洋のガラパゴス」と呼ばれる奄美の自然にどっぷり。よくここまで手付かずの自然が残っていたものだ。日食で有名になったトカラ列島を北上する。キップテンキッドの埋蔵金伝説の宝島。仮面神ボゼの悪石島。壮大な火山島諏訪之瀬島。トカラ馬が迎えてくれる中之島。平家伝説の平島。自生のタモトユリの咲く口之島。黒瀬に流され、渡瀬ライオンを越えて鹿児島へ。日本が一本の線で結ばれた時、その先にある日本の原点を探しに行く旅も捨てたものではない。

## 時を越え「レトロ電車」で鹿児島まち周遊

角之上 知樹 (スミノウエ トモキ)

公務員（団体派遣）／東京都調布市在住／1975年生



鹿児島のまちを走る路面電車は、九州新幹線の全線開業の翌年、2012年に大正元年の開業から100周年を迎える。近年、環境へのやさしさで見直される路面電車は、さらにその存在自体が観光資源として注目され、松山では観光用レトロ車両が「まちの顔」として走り抜け、多くの訪問客を楽しませている。鹿児島でも開業当初の姿を復元したレトロ電車を走らせよう。車内では画像や音声を使い、歴史や偉人、今では見ることのできない幕末維新の町並みの紹介をする。乗りながらにして時を越えた「まち周遊」を体験してもらうのだ。県民市民も、とりわけ子供たちは乗りながら郷土を学べる、乗るのが楽しみな車両になることだろう。南国の日差しに緑かがやく芝生軌道をチンチの発車音とともに「まちの顔」レトロ電車が走る。実際に乗るもよし、その走る姿に歴史ロマンを感じるもよし、きっと大いに訪問者を、そして私たちも楽しませてくれるに違いない。

## これからは、もう一つ「海」を活かした観光を

馬籠 陽八 (マゴメ ヨウハチ)

MBC 開発係勤務／鹿児島市在住／1956年生



鹿児島は、上野原遺跡から現代の宇宙ステーションへ物資を運ぶHTVロケットまで、その歴史的遺産は豊富にあり、他県の追随を許さないものがある。また、屋久島、霧島、桜島などの雄大な自然資源、温泉の恵みや黒豚、黒牛、焼酎、さつま芋、お茶、カツオ節等の豊かな食材や農産物があり、常にそれらの情報は様々な形で発信され、我が鹿児島の重要な観光資源になっている。そこにもう一つ、大事な資産「海」を活かした観光資源を掘りおこしたら、きっとすばらしいものが生まれるだろう。ご存知の通り、我が県は三方を海に囲まれ、離島があり、また桜島を浮かべる波静かで美しく豊かな錦江湾がありその魅力はつきない。海から見た陸地はまた別格である。現在、ヨットレースや海釣り公園があるが、もっと大規模にし、ヨットハーバーを各所に作り、海に親しめる施設を増やし、鹿児島の自然とマリンスポーツ、レジャーを一体化させた観光活性化の策定を行う事を提案する。



## 日本の近代化の夜明けは薩摩から

岡本 昭雄（オカモト アキオ）

百貨店勤務／鹿児島市在住／1951年生



歴史とロマンにあふれ、伝統を重んじ、近代化産業遺産の数多く残る国「薩摩」。昨年の大河ドラマ「篤姫」は、歴史とロマンの国「薩摩」を日本中に大いに印象づけた。今年は、日本近代化の父である島津斉彬生誕200周年、レトロ感あふれる嘉例川駅・大隅横川駅があり、経済産業省が選定した全国の近代化産業遺産群の一つである肥薩線開通100周年の記念すべき年である。また、西郷・大久保・小松等の明治維新で活躍した多くの人材を輩出している。集成館事業をはじめとする近代化産業遺産は、世界遺産登録を目指している。これらの幕末から明治にかけての日本の近代化の歴史、多くの人材、近代化産業遺産にスポットをあてる必要がある。そして、これらを系統立てて整理し、つなげて一つの物語をつくり、「日本の近代化を推進した国『薩摩』」を今後の、観光キャンペーンの柱とし、強力に押し進めていくべきである。



## 「ポスト篤姫」は鹿児島の食文化そして温泉

中木原 秀樹（ナカキハラ ヒデキ）

百貨店勤務／鹿児島市在住／1972年生

2008年は鹿児島にとって「篤姫」というエースの存在で大変貴重な年となり全国そしてアジアでも鹿児島をアピール出来た年であった。2009年、2010年は鹿児島が脚光を浴びる事は、はっきり言って難しいが、2011年には新幹線全線開業のおかげで必ず鹿児島にまた来たいという観光客が増える事は目に見えている。鹿児島の良さは、歴史は勿論だが、何といっても観光客に喜ばれるのは間違いなく食文化（黒豚、焼酎他多数）と大自然いっぱいの温泉である。なぜもっと訴求出来ないのだろう。残念でならない。3つ星レストランならぬ3つ星温泉を鹿児島から提案し、別府、湯布院、黒川に負けない鹿児島（薩摩）温泉とおいしい食文化をセットで全国は勿論、アジアにも売り込むべきである。いや売り込まなくてはいけないのである。それだけの素材、逸材は鹿児島には備わっていると私は確信する。あとは私を含めて鹿児島が好きな人が増え、全国、アジアの人々に訴求（アピール）する事が大切である。

## 大隅半島の観光振興について

倉 義経（クラ ヨシツネ）

公務員／肝付町在住／1976年生



大隅半島は薩摩半島に比べ、公共交通機関が少ないため交通手段は車が多数を占める。良い意味で捉えると車は機動性が増すため、目的地以外へ誘導しやすいと言える。通過点となりにくい大隅半島は目的地となるメインスポットの重要性は欠かせないが、目的地の周りにあるサブスポットを充実させることが大切である。サブスポットは、食べ物や史跡、景観など様々であるが、まず行うべきことは、地域の人や店舗など個々がお客様を迎えるという気持ちをもつことではないか。お客様の要望が高度化、多様化するなか、基本となる受入体制が整っていなければ流入人口の増加は望めない。最近ではNPO法人や自治体の声かけにより各地で受け入れの準備ができつつある。個々の魅力が高まればお客様も立ち寄るようになり、そこに新しい目的地が生まれる。点が線そして大隅という面になり新たな魅力を発信することで新幹線全線開業との相乗効果が期待できる。

## 私の作った「から芋」一緒に掘りませんか

藤崎 能子（フジサキ ヨシコ）

薬剤師（パート）／鹿屋市在住／1952年生



鹿児島市から大隅半島の中心地、鹿屋市街地まで車と船を利用して2時間余り。大隅半島への移動を「不便」と感じている人は多い。この地は、錦江湾や太平洋を眼前にし、高隈山系などの山々が連なる。その山々の麓からは肥沃な土地が続いている、この時期（秋）になると、田では黄金色の稲穂が風に揺れ、畑ではから芋などの作物の収穫に人々は忙しい。人が旅に出る目的は様々であろうが、初めて目にする風景に出会ったり、その土地で暮らす人々と心ふれあうことができた時、すばらしい思い出となる。大隅半島への不便さをスローライフのひとつの形と捉え、日常生活で味わったことのない体験と、ゆったりとした時を過ごす旅を推奨したい。ここには各地に様々な特産物がある。これらの収穫の喜びを生産者と消費者が一体化できないか。今ある観光農園のスタイルを真似てもう少し身近にしたものだ。そこで心ふれあう事ができた時、本物のぜいたくが味わえる旅になろう。



## NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」に向けて

前田 健次（マエダ ケンジ）

公務員／曾於郡大崎町在住／1965年生

鹿児島観光の課題の一つはコース設定・紹介が弱いことである。ところで、今年11月29日の大河ドラマの時間からNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」が始まる。2011年秋まで継続的に続く予定である。主人公秋山兄弟や友人の俳人正岡子規は松山の出身であるが、東郷平八郎元帥だけでなく、今年開通100周年の肥薩線のコース選定に大きな影響を与えた参謀総長川上操六、今NHKでドラマ化もされ、話題の白洲次郎の妻正子の祖父樺山資紀など鹿児島出身の人物も多数登場する。また、一方では日魯友好の象徴ニコラス殿下（後のロシア皇帝ニコライ2世）来鹿記念碑など各地にゆかりの場所が存在することから鹿児島の観光上有益である。ところが、観光関係者に十分周知させていないようであり、まちあるきコースにもまだ追加されていない。そこで、関連の学習、展示内容の検討などを行って観光の柱の一つとすべきである。

## 火坂先生と行く「天と地と」の旅

前田 健次（マエダ ケンジ）

公務員／曾於郡大崎町在住／1965年生

鹿児島観光の課題の一つはコース設定が弱いことである。今年のNHK大河ドラマは「天地人」であった。鹿児島とは関係がないと思いこんでいるために、特に指宿あたりの観光業界は苦しんでいるとか。僭越ではあるが、勉強不足といえる。確かに主役の直江兼続と鹿児島はさほど関係がない。しかし、石田三成や豊臣秀吉とは大きな関係がある。三成だけで例を挙げれば来年400年の新納武藏と大口城で会見している。大河ドラマ「天と地と」原作海音寺潮五郎こと旧制指宿中学教諭末富先生の出身地ではないか。また、検地尺が唯一、石田三成署名入りで集成館に残り、検地帳も県立図書館にある。当時の薩摩側の奉行は関ヶ原で三成からもらった軍配をもって義弘公の影武者として討死したという。太閤のまち大阪から新幹線が直通する時、絶好の話題ではないか。「坂の上の雲」で消えた2回分相当だと銘打って上記の内容をもりこんだ天地人スピノフ提案はどうか。「天地人」原作の火坂先生と各地をめぐるツアーを企画するのもいいアイデアだと思う。

## 平城遷都1300年に向けて

前田 健次（マエダ ケンジ）

公務員／曾於郡大崎町在住／1965年生

鹿児島県の課題の一つは広報が弱いことである。ところで、新幹線開業、大阪直通がせまる中、来年近畿地方の奈良で平城遷都1300年記念行事が行われる。遣唐使船の模型がつくられ、また、ゆかりの地の特別ウィーク・デーが設定され、歴史・芸能や特産品も出展できるという。鹿児島県には川内に薩摩国府、国分に大隅国府がある。戒律を伝えた鑑真和尚の上陸の地坊津などゆかりの場所が存在する。鑑真和尚は来年発行される奈良県の地方自治法施行60周年記念五百円貨幣のデザインにもなるという。また、鹿児島市の「せばる」はじめ、芸能もある。鹿児島の文化・経済上有益な行事である。また、小野石根が唐の使者を伴って帰国途中、長島沖で遭難した。この人は「青丹よし奈良の都は咲く花の匂うがごとく今さかりなり」と詠んだ小野老の子である。その記念碑があり、遣唐使船の模型も町の博物館にある。遷都記念行事で知つてもらい、新幹線開業後、実際に観てもらおう。国分などで盛り上げていくべきである。

## 大海原から学んだ医療を世界へ恩返し

神宮司 恒幸（ジングウシ ツネユキ）

地方公務員／鹿児島市在住／1951年生



蘭癖大名として有名な島津重豪が薩摩に西洋文明をとりいれるきっかけをつくり、島津齊彬が洋学を実学へと発展させた。齊彬亡き後、その精神は多くの若者たちに受け継がれた。開成所出身の高木兼寛は医学を修め、国民病の脚気から多くの人々を救い、「ビタミンの父」と呼ばれた。現代は健康に対する関心が高く、生活習慣病やがん等の克服を願っている。2011年新幹線全線開業と同時に「メディポリス指宿」が本格オープンする。同施設を中心とする心と体の医療、研究、産業の分野を包括的に取り組める鹿児島・南薩圏は、健康への強い関心を持つ人々に総合的に応えることができる癒しの観光地へと生まれ変われる。乳がんの検診率が低い女性達や海外の富裕層等をターゲットとした検診と観光を組み合わせた観光ルートの開拓を提言する。乳がんになった女性には治療効果の高いがん粒子線治療が期待され、鹿児島・南薩は心と体を癒す健康観光広域圏となるであろう。



## 史跡の統一美化と新名産品「福籠」登場

川井田 誠（カワイダ マコト）

大学職員／霧島市在住／1953年生

この度の新幹線開通に加え、高速低料金化、中国・東南アジアとの空路の充実、更に「東アジア重視政策」観光客集客の条件が整ってきた。このような中、本県が持つ各分野の歴史的財産や「黒」代表の食文化、世界に誇る温泉・景観等自然資源を味わいつつの贅沢旅ルートの整備を提案したい。今の歴史ブームも踏まえ、一つ目は本土南端を起点とする歴史探索ルート及び外城・戦跡の整備である。探索ルート：①参勤交代三経路②西南戦争進・退路③南蛮・大陸への海の道、県内全外城・戦国時代の戦跡探索である。これらの史跡に統一した標示や道路案内板を付け、地図付パンフの準備及びインターネットでの紹介で歴史好きに目標を与え制覇意欲を刺激できる。次に、福岡～鹿児島間の開通記念のお土産に竹籠製「ハッピーバスケット」を発案。福岡の「福」と、かごしま「かご」を取り「福かご（ハッピーバスケット）」と命名。大小各種を準備し、鹿児島～福岡の魅力の名産品を盛る。



## 鹿児島本線、車窓の思い出!

川井田 誠（カワイダ マコト）

大学職員／霧島市在住／1953年生

鹿児島本線が1914年の桜島大正大噴火の年に開通してから2011年で97年になる。その開通の頃から今般の新幹線の全線開業までの日本は、明治維新の大変革期にも劣らぬ変革期であったと思う。そこで、この機会に鹿児島本線沿いの車窓の変遷を写真で紹介できないものか。その際、主要駅の周辺の写真・絵画、さらには空中写真が展示できればなお良い。戦時中の各都市の空中写真は、米国が偵察機にて撮影し、保存していると聞いている。また、その頃生まれた大先輩の思い出話や、駅での様々な思い出、旅立ち・出兵・新婚旅行・修学旅行などジャンル毎、作文・写真・絵画等募集し、コンクールなどできたら良い。車窓等写真展示は各主要駅で一斉に実施。コンクール作品はTV等で紹介し、インターネットで一定の期間掲示する。写真集と状況により作品集も全国販売する。全国はもちろん、外国人からも募集。宣伝効果・集客効果も世界的になる。

## 郷土鹿児島の知られざる先人の掘りおこし

匿名希望（男性）

公務員／霧島市在住／1971年生

昨年のNHK 大河ドラマ「篤姫」が予想以上に好評を得られた理由として、それまであまり知名度が高くなかった人物を探り上げた事が一因として考えられる。その新鮮さと、ドラマティックな生き方が相乗効果をもたらした事で、あのような注目度を得られたのである。そのように考えてみると、本県においては篤姫と同様に、全国的に知名度は低いものの、歴史の転換期に関わりをもちながら、現代にもつながる業績を残した人物が多数存在するように見受けられる。そのような人物達を掘りおこし、地域と一緒に普及啓発を行い、キャンペーン活動を行っていく事に意味はないだろうか。その手法としては、教育委員会との連携、地域毎の商工会議所の積極的な取り組みなど色々考えられるが、目指すところは、ドラマ化、映画化などの映像化による普及啓発である。私は、具体的な例として「島津義弘」を中心とした三州統一の時期のNHK 大河ドラマ化を切に願っている。

## 島津 700 年の歴史を訪ねて！ 町あるき④

牧迫 良秀（マキサコ ヨシヒデ）

会社員／加治木町在住／1951年生



鹿児島の観光は桜島・西郷・焼酎に代表されるが、忘れてはいけない薩摩の支配者「島津氏」を十分楽しめるコースをご存知だろうか。観光スポットではないが、多彩かつ厳然たる薩摩の歴史の一部をチョボラのガイドが、オシマズ案内する約2時間の「町歩き」である。歴史の宝庫上町・島津氏ゆかりの地を古地図片手に巡ると皆薩摩の旅人となる。元気よく生きた薩摩人・知っているようで結構知らない薩摩の歴史を探訪できる。歴史にはタラ・レバは無いが、鹿児島は薩英戦争・西南の役・第二次大戦を経験し当時の建造物等観る物は、残念ながらほとんどない。先人に思いを馳せ、史跡を歩くと心地いい感動を味わえるので旅好きにはたまらない。散策ポイントは①生誕200周年齊彬の御墓を含め、莊嚴な歴代当主善提寺跡、②島津氏居城跡、③石の文化、④篤姫生家今和泉本邸跡、等々、運が良いと明治維新をたたきあげた薬丸自顕流の稽古風景も楽しめる。



## 再発見そして再構築

竹内 弘毅（タケウチ コウキ）

地方公務員／指宿市在住／1976年生

「天璋院雛姫」の放映は鹿児島県の観光業界に大きな影響をあたえた。彼女は全国的なヒロインとなり、鹿児島県の新しいシンボルとして全国に鹿児島をアピールしている。その彼女について、私は指宿市民でありながら名前程度しか知らなかった。5年前の私が彼女のために観光客として鹿児島県内を訪れる可能性は0%だった。ドラマを見た私は撮影地、関係先を訪ねてまわる観光客となった。彼女は、もともと鹿児島にあった観光資源である。その価値を私達が見過ごし、アピールしてこなかつたから観光の目的になることができなかつたのである。自分の故郷を見渡してみよう。眠っている観光資源はあるはずだ。鹿児島県を見渡してみよう。それと関係する観光資源があるはずだ。それらを集めて、ストーリー性をもたせて発信しよう。「今ある価値の再発見、再構築」次代に誇れる魅力的な観光ルートの開拓につながると確信する。



## 頑張れ鹿児島の海産物

西 健朗（ニシ ケンロウ）

公務員／鹿児島市在住／1973年生

この数年、小遣いの大半をはたいて毎月寿司屋に行っている。毎回新たな発見があるが特筆すべきは地物の旨さ。昼休みはデパ地下の鮮魚売場を徘徊。そこでも四季折々感動するのは地域性豊かな魚種の幅だ。小気味良いテンポで旬の知識と料理法を話すおかみさんのいる朝市や鮮魚店での買物も愉快。ところが、鹿児島は農畜産物や焼酎のブランド力に対して魚介類のそれが相対的に弱く、魚どころと言えば北陸や北海道という先入観は魚食いの間でも根強い。実力は負けない春の近海鮪、志布志の鯛、出水の車エビ等の地物の魅力が十分に活かされない損失は、魚食市場が世界的規模で広がりつつある今、存外大きいのではないか。南の海の食の豊かさを発信するためには、従来の一次産品にブランド名を冠するような手法に加えて、例えば県内各地に伝わる魚食文化に光をあてて文化的根っこのある商品に育て上げる、伝統の刷新といったアプローチ等がもっとあっていいと思う。



## 霧島を世界遺産に

永野 昭博（ナガノ アキヒロ）

養鶏業（採卵）／出水市在住／1951年生

年に数回、私は霧島を訪れる。その都度思うことは、霧島こそ世界自然遺産に指定して欲しいということだ。霧島と一口で言っても季節や場所によって見せてくれる景色は全く違う。高千穂の峰から韓国岳に至る山々は、そのほとんどが火口を持ち、それぞれの山頂から見る景色も全く違っていて美しい。紺碧の水を称えた火口湖が至るところにあり、絶好の散歩コースとなっている。冬は樹氷、春から初夏にかけてはノカイドウやミヤマキリシマ、夏は深緑に包まれ、秋は紅葉と、いつ行っても絶景を楽しめる。特に、ミヤマキリシマが山の麓へと下りてきた頃は、えびの高原周辺いたるところに咲き乱れ、こんなところにも咲いているのかと驚かされる。そして、霧島全域に広がる赤松の原生林も、ほかではあまり見られない光景だ。おいしい空気と綺麗な景色の中で食べる手作り弁当はこの上なくうまい。この素晴らしい自然は、いつまでも残しておきたい大切な日本の財産である。



## 一番身近な桜島を、もっと発信しよう

横山 真由美（ヨコヤマ マユミ）

鹿児島観光コンベンション協会勤務／鹿児島市在住

桜島の雄姿は、県外観光客に大きな感動を抱かせ、誰もがそこに足を運びたいと思うだろう。観光客のそのような思いが実現出来るように、さらに魅力ある桜島観光を考えはどうであろうか。桜島の魅力は、なんと言っても“景観の素晴らしさ”と“アクセスの良さ”である。また、生活圏内にそびえる活火山、温泉、四季を通じた島の特産（びわ、みかん、大根、養殖魚）、溶岩原や防災施設（地震観測所、土石流防災）など、周囲40キロメートルの島の中に豊かな観光資源が詰まっている。新幹線が全線開業して、最も手近に行ける所が、桜島である。桜島観望クルーズ、桜島版シティビューバスや郷土農水産物によるレストランの開設、地場農産物の収穫体験、養殖見学、新島や沖小島の浜辺遊びなど、新たな桜島観光を企画できないであろうか。桜島観光が元気になると、鹿児島市ののみならず、福山、垂水、大隅地域への人の動きも期待できる。



## 携帯の QR コードを利用した観光便利情報を

亀田 晃一（カメダ コウイチ）

MBC 南日本放送 カメラマン兼気象予報士／鹿児島市在住／1968 年生

本県観光策の欠点として、篤姫効果など、いつも一時的なブームへの便乗が優先しているように感じる。取材先で感じるのは、観光客の多くは一時的なブームではなく、恒久的に鹿児島でしか味わえないものを求めているということである。そうなれば、日常的な旅として鹿児島を訪れる仕組みを考える必要がある。私の考えの一つであるが、携帯の QR コードをもっと利用すべきである。理由は、携帯は所持率が高く、特に若い世代に鹿児島の良さを PR でき、観光後も利用できるからである。観光地の看板には、すべて QR コードを入れ、それによってポータルサイトにつながる。観光地の案内はもちろん、他の観光地への移動手段、天気、交通情報、土産品情報や宅配便情報等、旅に関わる全てが分かり、ストレスなく観光を楽しめるようにする。抽象的でトップダウン的な観光策にはそろそろ終止符を打って、観光客目線で具体性と実効性ある仕組みづくりを進めるべきである。



## 町内会から 世界へ発信

安楽 ミサ子（アンラク ミサコ）

鹿児島ぶらりまち歩きボランティアガイド／鹿児島市在住／1943 年生

私の受け持つ「鹿児島ぶらりまち歩き」近代化産業遺産を歩くコースは、距離にして 1,200m、運動公園と同じ位だが、出発地点で 360 度グルリ一回りしていただくと、一気に宇宙を包む大きさに変る。ここは 150 年前、斎彬が日本近代化のため起こした集成館事業の跡地であり、今は世界の人々が注目する「九州山口世界遺産暫定リスト」に登録された地であり、いくつもの遺産や遺跡が点在する。私自身鹿児島に生れ育ちながら、ここにそんな歴史が隠れている事等、つい先頃まで知らなかった。鹿児島は観光立県と言うが、一部の人だけが密かに知っていて、皆んなの知らない大事な物が山程ある。まずは地元に住む人が、その価値を知り感動し、普段素通りしている歴史の素をもう一度見直す事から始めたい。私は自分の受け持つ磯地区を磯に住む町内会の方々と共にまち歩きをし、気づき、この素晴らしい史と景を地区から日本の中央へ、そして世界へ発信していきたい。

## 観光立県に向けての 1 提言

土岐 健三郎（ドキ ケンサブロウ）

無職／鹿児島市在住／1934 年生



鹿児島には県北部から南に 4 つのカルデラ、加久藤、姶良、阿多、鬼界の巨大カルデラがある。とくに姶良カルデラは鹿児島湾奥部にあり、南北約 23 キロメートル、東西 24 キロメートル、面積 429 平方キロメートルの世界最大級のカルデラである。このカルデラの南縁で噴火しているのが活火山桜島である。なお活火山桜島は鹿児島市内に位置している。これは 60 万大都市内に活火山が位置している世界的に見ても希有な地形である。そこで次の提言をしたい。まず、4 大カルデラはもちろんとくに世界最大級の姶良カルデラと大都市鹿児島と活火山桜島とのシチュエーションとその優れた景観をもっと大々的に我国はもちろん、世界に向けて PR すべきである。さらに、今後、ヘリコプター等による姶良カルデラ、桜島、阿多カルデラ等を遊覧飛行できる施設の建設や姶良カルデラ等を一望できる展望台公園の設置も考慮すべきである。

## 「世界遺産」(自然遺産)への提言

土岐 健三郎（ドキ ケンサブロウ）

無職／鹿児島市在住／1934 年生

鹿児島に存在する 4 つの巨大カルデラの中で「姶良カルデラ」は面積 429 平方キロメートルの世界最大級のカルデラである。今から 2 万 5 千年ほど前、最終氷期の頃に起こった大噴火によって陥没したカルデラに海が入って出現したものが鹿児島湾奥部である。そのカルデラの南縁に 2 万 2 千年前頃から噴火し始めた活火山桜島がある。桜島は海上火山景観の最も優れた山である。外輪山に相当する鹿児島市の吉野台地、霧島市の上野原、鹿屋市の輝北天球館、桜島の浮かぶ鹿児島湾奥部はどの位置から見ても日本が世界に誇る景観である。「姶良カルデラ」は、世界遺産登録基準 vii の「ひとときわ優れた自然美、及び美的要素を持つ自然現象・地域」と、同 viii である「地球の歴史の各主要段階をあらわす顕著な見本」の 2 点に十分に当てはまる。なお、「姶良カルデラ」は現在 176 件ある自然遺産に比してなんら遜色はない。そこで今後「姶良カルデラ」の世界遺産登録に向けて、大々的にキャンペーンを展開すべきである。



## 観光は郷土への愛着から

瀬戸口 満 (セトグチ ミツル)

公務員／鹿児島市在住／1972年生

私たちは意外に郷土のことを知らないと思う。まずは地元に住む者が、郷土の歴史や文化、自然などを知り、あるいは再発見し、郷土に親しみと誇りを持つことが観光客のもてなし、観光振興へつながっていくのではないだろうか。鹿児島への愛着と知識を持つある人が県外の友人に鹿児島の自慢話をすれば、それだけで観光客の掘り起しができる。郷土への関心を持つには、例えば歴史をテーマにする場合、小中学校の授業で黎明館や維新ふるさと館などの施設を訪れたり、西郷どんの遠行などに参加して実際に史跡に触れたりする。最初は興味がなく、何気なく参加したとしても、何か郷土のことが気になり始めるのではないか。私たちが住む街に意外と貴重な観光資源があることを発見し、郷土への関心と誇りを持つきっかけになるのではと思う。九州新幹線全線開業を前に観光振興に力が入る時期だが、同時に私たちはもう少し郷土のことを知っておくべきではないだろうか。



## 様々な声を活かした土産品・駅弁の開発推進

鹿子木 聰 (カコキ サトシ)

公務員／鹿児島市在住／1979年生

鹿児島は全国に誇る食材の宝庫である。九州新幹線全線開業は県内入り込み客数を大きく伸ばすチャンスであることから、それをターゲットにした土産品や駅弁の新規開発に係るアイディア収集と商品開発を今まで以上に推進すべきと考える。“土産用に個包装されたかごしま茶ティーパック”や、“屋久杉の年輪に模したバームクーヘン”といった商品は「売れるかも」と私は思うが、このような個人の思いつきが商品開発の参考にされるようなしきみがあれば面白いと思う。また、斬新なアイディア収集のために、各種学校との連携といった手法も大切だと考える。「観光客の声に敏感であること」が大切である。そのために、“観光なんでもご意見箱”的なものの設置や、それを取りまとめた情報の発信・分析の強化等は、鹿児島の魅力により磨きをかけるものになると思う。“みんなで創る鹿児島の未来”が楽しみでならない。

## これからの桜島を創る観光施策

濱上 洋海 (ハマガミ ヒロミ)

自衛官／福岡県筑紫野市在住／1972年生



東の空に噴煙しきる「桜島」は、今も昔も鹿児島県民にとっては郷土の誇りであり、県外在住の郷土出身者においては懐かしい故郷のシンボルでもある。地域の情報番組や観光ガイド、さらにはマスコットなど必ずや登場し、日常生活において最も目にする機会の多い「名脇役」とと言えよう。活火山ゆえ、噴煙による降灰に悩ませられることもしばしばだが、県民はそれら難題を克服し、桜島と上手く共存してきた。かつての人々に敬遠されてきた火山灰や軽石などは園芸資材や土産物に活用され、温暖な気候を利用して「桜島小みかん」「桜島大根」などのブランド品を確立した。国内はもとより世界中にその名を馳せた桜島を、島の歴史と火山エネルギーを体感出来る「火山歴史館」の創設や、溶岩海原を登り歩く「溶岩クライミング」など、他に類を見ない斬新な体験型の観光活用策を提案する。未来の子供達に「桜島」を受け継ぐべく、県民挙げての取り組みを期待する。



## 名旅館「かごしま」を目指して

稻富 郁夫 (イナトミ イクオ)

公務員／鹿児島市在住／1959年生



名旅館とは、旅行者をいつも暖かく迎えてくれるところ、手の行き届いた施設の中で、旅行者は体を温められる温泉に浸かり、地元ならではの美味しい料理と穏やかな眠りの場を提供され、地元の話を聞きながら、くつろぎのなかで心温まる歓待を受ける。それは、昨日までの疲れを癒し明日への活力を生む。そして、またここを訪れたいと思う。そんな旅館のような鹿児島を目指したい。そのためには必要なことは、鹿児島を大事に思う心とおもてなしの心だろう。鹿児島を楽しんでもらおう、鹿児島をもっと知ってもらおうという気持ちがあれば可能だと思う。そのために、鹿児島への知識の豊かな者たちのネットワークを活用して、鹿児島を訪れる方々への「知」の提供をすれば、旅行者の知る喜びに応えられる。そのことによって鹿児島の観光振興に役立てればもっと良い。

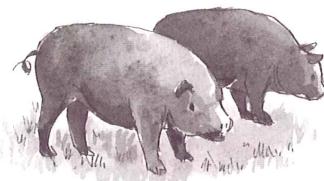


## 南さつま海道 野間半島を巡る

西 真知子（ニシ マチコ）

鹿児島純心女子短期大学司書／鹿児島市在住／1950年生

九州新幹線の全線開業に伴い、これまでに行けなかった観光地まで足を延ばせる。そこでお薦めしたいのが自然、文化、歴史の魅力あふれる南さつま市の南さつま海道巡りである。鹿児島中央駅から車で南西に1時間余り、かつて舟人たちが航路標としたという野間岳が現れる。南さつま海道から眺められる東シナ海を臨む海岸線、海に浮かぶ島々、岬などの雄大さや美しさを堪能して欲しい。代表的な景観は南さつま海道八景と名づけられ紹介されている。食事や宿泊ができる「笠沙恵比寿」では展示室や様々な体験プランが用意されている。黒瀬杜氏の焼酎工場「杜氏の里笠沙」や石垣群の里大当、さらに東にある坊津には唐の鑑真和尚の偉大な功績や生涯を知ることができる「鑑真記念館」がある。梅崎春生の「幻化の碑」も近く、一度は立ち寄ってみたい場所である。四季折々、朝夕人の心を捉えて離さない。鹿児島へのリピーターを迎えるには格好の場所である。



## 鹿児島を知る

川畑 英樹（カワバタ ヒデキ）

医師／鹿児島市在住／1953年生

鹿児島県の魅力は、その広大な県土である。面積は9,188km<sup>2</sup>で全国10位であるが、南北600kmで温帯から亜熱帯まで広がる温暖な気候であり、離島、火山など海や山に恵まれ、その多彩な自然の中で、素晴らしい歴史や豊かな文化をもっている。また農畜産漁業による豊富な食材にも恵まれている。他ではなかなかみられないことである。このような鹿児島の多様性、特異性を県民が認識することが大事である。県民が各地に出掛け、その素晴らしさを実感することである。県外にも出て鹿児島との違いを知ることにより、鹿児島の良さを知ることになる。また、かごしま検定を広めてもらいたい。170万県民のなか、まだ受験者が少ないと思われる。

## 観光資源素材発掘の一手法

藤田 正夫（フジタ マサオ）

元公務員／鹿児島市在住／1948年生



観光は非日常的行為であることから、普段体験できない本県でしか味わえないものが求められる。キャッチフレーズとして、これまでの「7S」や一般によく使われる「クロ」があるが、現在「本物。かごしま」となっている。この本物は特に何かを指しているわけではないということなので、素材発掘の一手法として本県の「日本(世界)一」を整理すればどうか。区分として①生産、②消費、③最古・最新・最初、④最多・最少、⑤最大・最小、⑥唯一などが考えられる。この中には良く知られているものも多いが、関係者には常識でも県民が知らない事項も多々あると思う。統計等のものもあるが、ある程度こじつけ的なものでもいい、遊び心も大切である。観光は総合産業であり、直接関連する方々だけでなく異業種等の方も整理された印刷物を読むことで新たなる素材があるのではないか。この他、一般県民も読むことにより、郷土の再発見・再認識が期待できる。

## 県（国）外から見た本県観光への提言募集

藤田 正夫（フジタ マサオ）

元公務員／鹿児島市在住／1948年生

県（国）外からの観光に対する意見は貴重であり、常識と思っているようなことも、案外まったく別の見方、考え方を見つかる可能性は大である。観光客からアンケート等で種々の意見を知ることはできるが、踏みこんだものを求めるることは困難である。幸い、本県にも学生、企業等に県（国）外出身の方が多く在住されており、これらの方々から本県での生活、仕事、観光等を通して、どのように思われ体験されたことを知ることができれば、観光に活かせるのではないか。アンケートではなく苦言も含め具体的な本音の提言をもらえばどうか。できるだけ幅広い層の提言が欲しいが、募集方法が難しく工夫が必要である。もっとも手っ取り早いのは、商工会議所会員企業の中の該当者に協力依頼をすればどうか。多く集まるに越したことはないが、①直ちに対応可、②時間はかかるが対応可、③困難等に分類し、各々の立場でできることから実施することで、観光産業の一助になると考える。



## 観光立県に向けての提言

市来 壽道（イチキ ヒサミチ）

無職／鹿児島市在住／1944年生

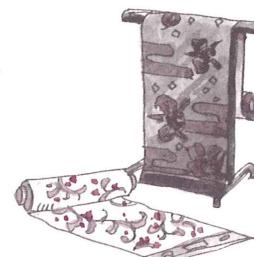
我が鹿児島県は本土最南端に位置し、温暖で自然景観に恵まれ温泉も豊富、明治維新の英傑達の輩出をはじめ多彩な歴史にまつわる史跡や文化に溢れ、農産物等の供給基地としての存在価値も高いが、ただ日本的心臓部から遠い。しかし今回、九州新幹線全線開業を迎えるに当たり、まずは県民個々がホスピタリティ意識の向上に努める事が第一であるが、具体的には①充実した「ゆとり」スペースのある総合観光案内所の設置と宣伝用のキャラクター商品の作製、②リピーター誘致に県内観光地、施設、ホテル等の参加による1～2年を目安としたスタンプラリー作戦、③歴史ある郷土の伝統芸能や行事等の披露と同時に、その土地の旬の野菜や名産品の「食」や「工芸品」の販売等で集客を図る、等々。全線開業というチャンスを是非ステップアップの足がかりにしたいものだ。



## 離島観光のすすめ

今村 隆久（イマムラ タカヒサ）

県職員／鹿児島市在住／1969年生



今年は高速道路の値下げもあり、北のほうに向かった方が多かったのではないだろうか。逆に、南や西に注目してはどうだろう。鹿児島県内には、多種多様の観光資源が存在する。その中でも、私が考える最高の素材は離島である。最近は、通信販売で現地の特産品を購入することもできるが、直接体験することを勧めたい。奄美市の土盛海岸の鮮やかな色は写真ではわからないし、口頭では絶対に説明できない。食についても、例えば本土で販売されているパイナップルは追熟を見込んで早めに収穫されているが、奄美では完全に熟するまで植えてあるものが味わえる。もちろん、奄美で花粉症がないことは、直接行かないと実感できない。このように、現地に行かなければわからないことが多いのである。今年の皆既日食では、悪石島が注目を集めた。これまで必ずしも知名度が高かったとは言えないが、その分、新しい発見をした方も多いかったものと思われる。

## 県民の街美化意識向上の啓発について

長野 満雄（ナガノ ミツオ）

会社員／鹿児島市在住／1945年生



観光客は、観光地を訪れ、感激・感銘とともに観光等の基本でもある街美化を要望している。ところが県民の街美化意識は、街中の至る所に多く見られるタバコの吸殻、空缶等の投げ捨てが現状である。このため鹿児島市は先駆けて、街美化条例を実施したものの、その効果は表われていない。そこで県民全体が無理なく、自然体に受け入れ易い街美化意識向上の啓発が早急に望まれる。

- 行政は、家庭、幼児、児童生徒別の教育の一環として、マンガ式資料を、成人には、町内会、各種催物を通じた実践型講演で街美化意識向上を図る。
- 商工会議所が中心となり、組織化された参加企業への街美化意識向上を図る。また、かごしま検定合格者に対し、年数回の各地区観光地の一斉清掃参加を要請する。
- 県観光連盟が中心となり、全県的に年数回の居住地区の街美化活動として、一斉清掃を働きかける。

## 薩摩藩英國留学生出発の地周辺の記念事業

今村 隆雄（イマムラ タカオ）

自営業／いちき串木野市在住／1938年生



1865年にいちき串木野市羽島浜中港より幕府の禁止令を侵して19名の若者達が英国に向け長い航海の旅に出た。今まででは石碑と説明板が設置してあるだけである。6年後には150周年の節目の年にあたり、鹿児島県といちき串木野市では予算を計上して歴史公園と資料館を整備する計画を進めている。地元の史跡顕彰会では6年後に「NHKの大河ドラマにできないか」という声も上っている。この渡欧の地の近くには西郷隆盛が工事責任者となり完成させたかんがい用水のための「万福池」もある。羽島より市街地へ帰る途中には日本で3ヶ所しかない原油の地下備蓄所がある。3号線には藩政時代の金山の坑道跡が見学できる薩摩金山蔵もある。時間のある人は山岳密教の靈峰であり、秦の始皇帝の命を受け、不老不死の薬を求めて来日した徐福が冠を置いたと伝えられる冠獄もある。



## 都会の疲れを鹿児島で癒そう

内田 千枝（ウチダ チエ）

鹿児島トヨタ自動車株勤務／鹿児島市在住／1964年生



霧島国立公園は昭和9年に国立公園第1号に指定され、「日本百名山」・「日本百景」にも選ばれ、その美しさは一言では言い表せない。近年、登山が中高年者のブームのようであるが、最近では都会で働く人達のストレス解消として、自然の中でのリラクゼーションを求める若い女性も多くなっているように思う。霧島山は2時間前後で登れる韓国岳、中岳、新燃岳や、白紫池など3池めぐりの散策コース。国の天然記念物でもあるノカイドウを見ながら自然を楽しむコースなどがある。また霧島連山の山麓には温泉も多いことから、湯宿に泊まり渓谷沿いを散歩するのも良いのでは。また農畜産が盛んな「鹿児島の食」をテーマに「鹿児島ブランド」をアピールし、「これを食べに行きたい」と思える料理の開発に力を入れて頂き、自然に触れて、美味しいものを食べる、「都会の疲れを鹿児島で癒そう」と題したキャンペーンを。また私達も知らない鹿児島の魅力を引き出し、多くの人に知ってもらいたい。



## 種子島から始まった日本の技術

藤田 英介（フジタ エイスケ）

県農業開発総合センター熊毛支場主任研究員／西之表市在住／1968年生

種子島は、佐多岬から約40キロ離れた島である。隣にある屋久島は、日本初の世界自然遺産登録で日本有数の観光地となっているが、種子島は今一つ知られていない。しかし、種子島には、今日の日本を支えてきた技術、未来に向けての技術があり、これらをもっと観光資源として活かせないかと考える。約460年前に鉄砲が伝わった事で、日本で初めての国産鉄砲を製作することができ、その後の戦国時代による戦いの方法を一変させたと言える。約310年前に琉球国王から贈呈されたさつまいもから、その栽培方法を日本で初めて確立させ、江戸時代の飢饉や第二次世界大戦における国民の食生活を守ったと言える。そして、約40年前に作られた宇宙センターからは、人工衛星を積んだロケットが次々と打ち上げられ、日本の最先端技術の優秀さを世界に示している。これら、先人達の技術、そして今現在の最先端技術を一度に見ることが出来るのが、種子島の大きな魅力である。

## 県民の価値観の共有化は観光の基礎

彌榮 博光（ミエ ヒロミツ）

会社員／鹿児島市在住／1955年生



毎日桜島を眺めていると、さてどこから見る風景が最高なのかと思う時がある。観光客にベストポジションは何処かと尋ねられたら、城山展望所くらいは勝手に感じて下さいではひどい話だ。贅沢すぎる眺めに逆に慢心しているのが実態だと思う。そこで「鹿児島県民が選ぶ桜島のある風景〇〇選」というタイトルで、一般公募できないものかと考える。そこで採用された風景を、桜島観光の推進役として活用すれば良い。人によりストレートに地球の創りだした造形美をイメージする人、また桜島のもたらす恵みとダブルでイメージする人、さらには幕末からの近代化とからませる人とさまざまであろう。さらに桜島中心に360度、しかも春夏秋冬、朝昼夜とその素材は無限にある。要は県民がその価値を認め、旅人も同じ価値観を共有したいと願ったとき、また新しい観光の起爆剤となりうるのではないか。観光は経費をかけるものではなく県民の価値観の共有化がまずは先決だ。

## グルメ鹿児島、現代版、点と線

彌榮 博光（ミエ ヒロミツ）

会社員／鹿児島市在住／1955年生

鹿児島人は遠慮深いとはよく聞くし、また他に対しPRの下手な県民ともよく聞く。鹿児島の観光が3Sに頼るのは限界があるし、さまざまな模索がなされているのも承知している。その中で、あえて日本一というタイトルで、多くの観光客に強調できるものがあるとすれば、食文化の宝庫性にこそあると思える。観光客のことばに、毎日焼酎を飲んでいるが、やっぱり本場鹿児島の味は違う。よく聞くことばだが、日本一の生産地は日本一の味がするのだ。振り返って、長島のブリ、枕崎の鰹、垂水のカンパチ、鹿屋のトンカツ、大隅の鰻、どれをとっても日本一の生産量や水揚げを誇る地区の食材である。日本一の食材をその本場で食べさせたい。日本一はウソをつかない。そうした思いを全国に発信し続けるべきである。ひとつひとつは点でも、線で結べば強力なゾーンとなりうる。今や日本一は、単独で強調できる時代は終わり、ゾーンで対抗する知恵が求められている。



## 奄美諸島・観光復活のススメ

永井 富夫（ナガイ トミオ）

無職／鹿児島市在住／1940年生

奄美諸島にも「皆既日食」見学者が全国から来島し、自然・伝統文化・産業等にも触れて帰ったと考える。かつての新婚旅行や海洋レジャー等での離島ブームから約40年が過ぎた今日、観光客の志向も時代と共に変わり減少傾向を示している。皆既日食を機に従来の景勝地見学型を見直し、離島固有の素材を四季を通じて滞在しながら参加体験できる観光戦略を検討すべきと考える。サトウキビ刈り・黒糖製造・スモモ・マンゴー・タンカン・花卉等の農業体験。マングローブ原生林・大島海峡の島・井之川岳・湯湾岳の自然散策・登山。八月踊り・油井豊年祭等の伝統的文化行事への参加。小中高生の体験学習・研修などができる素材を各島が統一した体験カレンダーを作成し、参加したい・行って見たい・行きたい島をキャンペーンの柱とすべきである。また島外の郷友会、旅行社、行政間の連携、各島内に在住する外国人を通じ、アジア諸国などへの積極的な広報活動も不可欠である。

## 大隅半島の観光活性化について

永井 富夫（ナガイ トミオ）

無職／鹿児島市在住／1940年生

大隅半島の中南部地域は、古墳群・山陵・照葉樹の原生林などユニークな観光資源を有し、またハウス園芸・柑橘類・漁業なども盛んな地である。しかし、この地域にはJR路線がなく、遠く不便という印象が強く、観光客が訪れる数も限られていると考える。現在、過疎化が進み、限界集落も多く分布する。このような状況の中で、観光素材と地域の活性化策を関連づけた観光戦略を検討すべきと考える。近年、旅行形態や嗜好も変化し、個人旅行や体験滞在型の観光客が増え、そして多様化している観光客のニーズに応えられるよう、自治体・農協・観光協会・旅行社等が連携し、共同で観光素材のあり方等について検討する必要がある。観光戦略として、内之浦を中継地（滞在地）として、大根占・田代経由と鹿屋・高山経由の自然・歴史・農漁業といった素材を生かした「農漁村ツーリズム」・「グリーンツーリズム」等の体験滞在型観光、一泊着地型観光を推進していくべきである。

## ぶらりまち歩きに「おじやたもんせ」

内匠 洋子（タクミ ヨウコ）

無職（主婦）／鹿児島市在住／1952年生



「ゆくさおさいじやもした」薩摩が生んだファーストレディ、篤姫ゆかりの地を歩くコースの案内が始まる。雄大な桜島を眼前にして、口ヶ地となった石橋公園の西田橋からスタートする。忠剛の娘として過ごした薩摩の大好きな浜屋敷跡から、南洲神社近くの生誕地である今和泉島津家本邸跡までを散策する。約2キロ約2時間のコースである。歴史的背景と自然風土を感じながら、篤姫が幼い頃過ごした場所を篤姫の気持ちになって辿る。楠の葉の香りに癒され、篤姫も飲んでいたという湧水で喉を潤す。次第に観光客の方々との会話も弾んでくる。北海道の方は、庭先にたわわに実っているみかんにびっくりされ、福島の方は、色鮮やかなブーゲンビリア・ハイビスカスに見とれたりと。「歩いていると、素敵なお見があり楽しいですね。歴史的遺産も多く、またゆっくり訪れたいです。」まち歩きボランティアガイドをして良かったと思う時である。「さるいてみもんぞ」



## 南九州広域観光の推進

内匠 洋子（タクミ ヨウコ）

無職（主婦）／鹿児島市在住／1952年生

鹿児島県伊佐市（旧大口市）・宮崎県えびの市・熊本県人吉市は九州南部県際交流推進の事業が活発に行われている。肥薩線全線開通100周年で盛り上がった嘉例川などはレトロ感溢れる駅である。またスイッチバックがめずらしい「いさぶろう・しんぺい号」の日本一の動く展望台などは魅力である。大口と人吉間は久七トンネルが開通し、さらに距離が近くなった。最近は、ETC効果もあり九州はもちろん、本州からも気軽に観光客が訪れる傾向が見られる。先日家族で霧島・生駒高原までのドライブを満喫した。午前中は鹿児島の平川動物園でゆっくり遊び、午後は生駒高原でコスモスを楽しみに来たと話されたのは宮崎県の子供連れだった。「鹿児島は観光スポットがいっぱいあり、何度も行ても楽しい。羨ましい。」と嬉しい言葉をいただいた。九州の南にある素晴らしい地の利を生かし、今後の観光の活性化を更に推進していきたいものである。

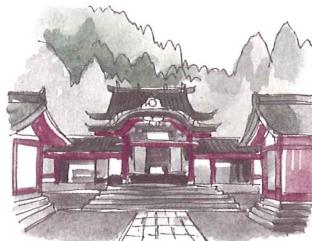


## 県民の皆さん、鹿児島の魅力を知っていますか？

田代 亜弥（タシロ アミ）

鹿児島市かごしま観光キャラバン隊／鹿児島市在住／1980年生

2008年大河ドラマ、「篤姫」をきっかけに、今、鹿児島の観光はなかなか熱い。ETC1,000円なども手伝って、県外からの観光客も増えているようだ。偉人の多い鹿児島だが、現代においても、芸能界などで活躍する鹿児島出身者は多く、彼らがテレビなどを通して、鹿児島の良さを伝えてくれている。だが、少々残念なのが全て外からの発信なのだ。桜島の雄大さも温泉の素晴らしさも、県内にいると普通のこと、あたり前のことになっていて、その魅力を忘れてしまっている気がするのだ。観光客においしいお店を聞かれても、良い温泉を聞かれても、「ここだっ！」とはつきり言えるだろうか。黒豚がおいしいけれど、店は知らない人が多いと思う。観光をかけている割に、県民一丸でという感じがしないのが残念だ。いい所づくしの鹿児島。せっかく住んでいるのだから、皆が鹿児島を愛して、皆がいつの間にか、かごしまマスターになって欲しい。



## めざせ!!観光振興・鹿児島

川畑 勝成（カワバタ カツナリ）

団体職員／薩摩川内市在住／1961年生

鹿児島は自然と文化の宝庫である。世界遺産に指定されている屋久島を筆頭に多くの島々、霧島、指宿ほかの温泉地にも恵まれ、鹿児島市には日本の近代化の礎となる多くの歴史的な観光資源がある。これらを活かすため、陸海空のネットワークの連携も大事である。特に、九州新幹線は2011年の全線開業が期待されており、また、海路では離島へのフェリー等の航路、更に、鹿児島空港を中心とする航空網、それぞれの連携を観光振興に結びつけるかが大きなカギとなってくる。また、来年の大河ドラマは「竜馬伝」ということで、ゆかりの地・霧島を題材としたイベントやキャンペーンも観光振興につなげたいものである。鹿児島は歴史的な遺産が多くある一方で、種子島にはロケット基地という宇宙への扉があり最先端の技術で未来へ開かれた土地という一面も併せ持っており、非常に恵まれているわけであるので、是非これらを活かし観光客のニーズに応えられるようにしたい。



## 「人の心に触れるおもてなしの里」鹿児島

月野 祐子（ツキノ ユウコ）

株山口水産勤務／日置市在住／1964年生

東京で鹿児島黒豚を食する機会があった。従業員の明るく爽やかな接客で黒豚のおいしさと共に、元気をもらうことができ、好印象をもった。アンテナショップ遊楽館も鹿児島の良さを全国に発信しようと頑張っている。また、作曲家吉俣良さんはドラマ「篤姫」に素敵な曲を提供されたが、現在も親善大使となり鹿児島のPR活動に熱心だ。ドラマの中で篤姫の母のセリフに「人にはそれぞれの役割がある」とあった。どこに住もうが、どんな立場であろうが、鹿児島を愛する気持ちに変わりはない。それぞれの役割「自分に出来る事」から始めよう。人に会ったら挨拶をする。困っている人に親切にする。環境美化に努める。安心安全の野菜やお茶、健康な牛や豚を育てる、など自分と自分以外の事を思いやる心を育てる事が、観光県鹿児島にとって「人の心に触れるおもてなしの里」になる大きな要因だと思う。

## ゆかりのまちとの交流の大切さ

月野 祐子（ツキノ ユウコ）

株山口水産勤務／日置市在住／1964年生

9年前、岐阜県の関ヶ原合戦400年祭に参加した。戦いには負けたが、「敵中突破」を敢行した島津軍への絶大な人気と、義弘公の身代わりとなって死んだ甥の豊久公を神社まで建てて手厚く供養されている上石津町の姿に感動した。岐阜県は、他にも宝暦治水もあり、鹿児島とは縁が深い。最近のニュースで、山口県との平成の薩長同盟や、福島県の劇団が人間同士の和解をテーマにした劇を上演するなどの話題があった。新幹線全線開業により、これら縁のある県との時間短縮が図られ、お互い身近に感じ、交流の機会が増えることを嬉しく思う。篤姫の時代は、京都や東京と深く結びついていた。これらの地域は国の中心であったことから国宝や重文などの建物や美術品が多く、恵まれた環境にある。鹿児島は、国宝こそ少ないが、世界遺産屋久島をはじめ、自然界からの贈り物は本物だ。ぜひ京都や東京でのPR活動に力を入れてもらい、本物のわかる人達へ鹿児島の本物をぜひ堪能してもらいたい。